

至りしこ。境内千二百三十三坪、巨木蒼鬱して繁茂し、中には四五百年を経過したる樟樹もありしが、近年伐採の厄を受け、その面影を存するなし。

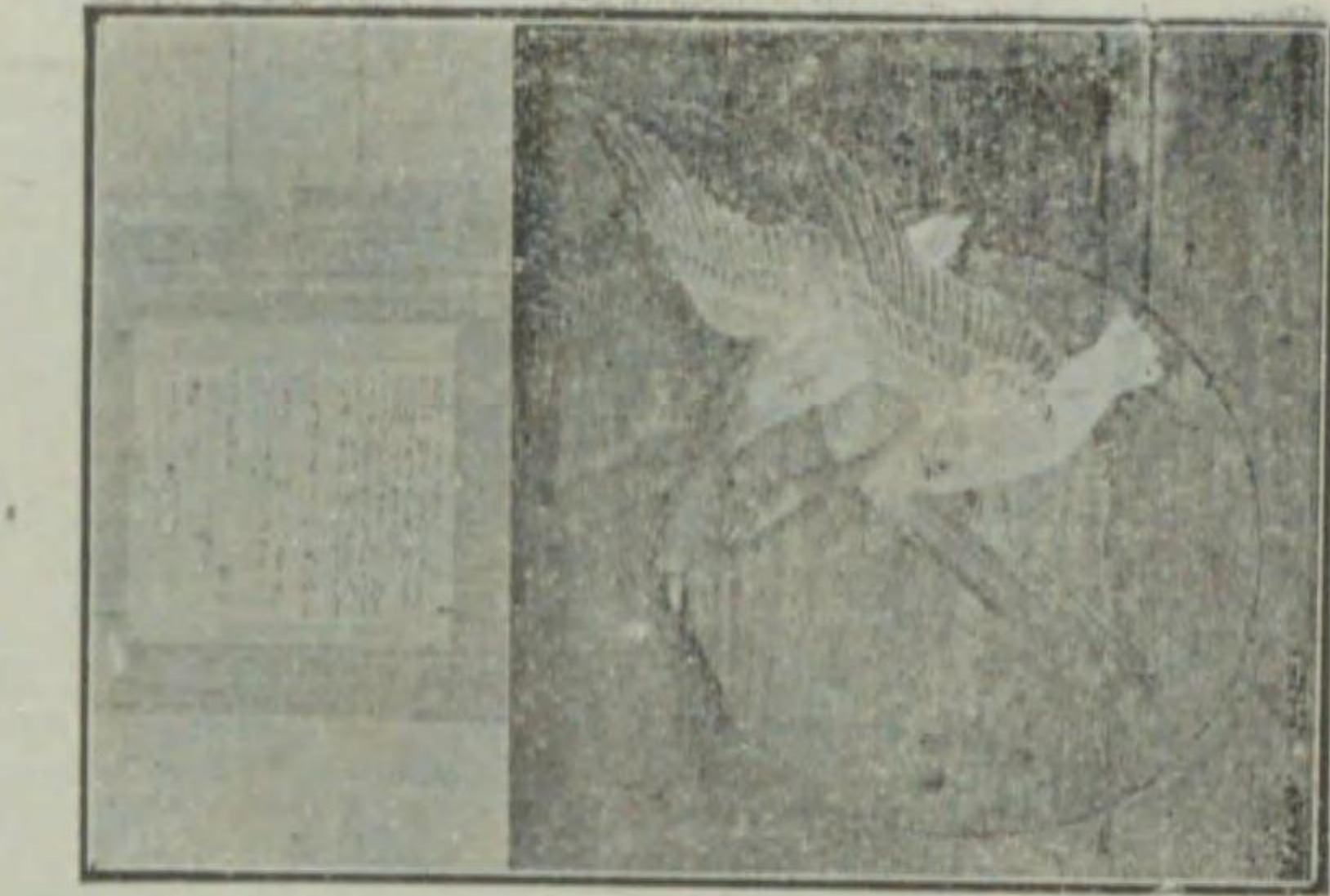
◇村社神明社 神明町大手通りの東側にあり。天正十一年の創立にして、天照大神を祀る。社殿、拜殿等の建築物あり例祭は九月十五、十六日兩日行はる。

◇村社神明社 瓦町北裏にあり。寛文五年の創設にして、祭神は天照皇大神たり。社殿、拜殿等森林に包まれ、頗る閑雅の地たり。例祭は毎年十月十五日を以て行はる。

◇村社諏訪神社 中柴の東側にあり。傳へいふ永仁元年の創設に屬す。祭神は建御名方命にして、社殿、拜殿、社務所等あり。

◇村社八劍神社 花田なる羽根井西郷にあり。本社はもこ神官鈴木三郎右衛門氏邸内に奉祀せられたりしものを永祿元年此地に移したるものなりといふ。境内三百八十餘坪祭神は日本武尊なり。

◇無格社天神社 新錢町にあり。菅公を祀る、傳へいふ往昔羽田に漂着したる神像を奉祀せるものにして初めは石塚邊にありしが天文三年今の所に遷座したるものなり。



(筆山華邊渡)繪書及井天格社神天

◇乃木神社 八雲ヶ岡にあり。大正元年九月十三日衣ヶ浦灣内大島に於て奉祀せる將軍の英靈を更に大正九年四月此地に移せしが、廢藩置縣後屢々移轉して、明治二十五年五月東八町八幡神社の傍に移し更に其後此地に移轉したるものなり。

◇乃木神社 八雲ヶ岡にあり。大正元年九月十三日衣ヶ浦灣内大島に於て奉祀せる將軍の英靈を更に大正九年四月此地に

奉祀したるものなり。

短刀銘 月山貞一作 壹振

右ハ乃木大將愛用ノ短刀ニシテ此度三州乃木大將祭祀會ニ於ケル乃木神社神靈トシテ贈呈ス

大正七年三月二十五日

伯爵乃木希典甥

陸軍砲兵中佐從五位勳四等 玉木正之

◇楠公祠

八雲岡にあり。明治元年小野湖山翁が羽田野常陸氏草鹿砥氏等と相圖り自邸西八町に勸請したりしが、六年五月居を東京に移すに及び之を羽田野氏の邸に移し、氏の歿後、祭祀意の如くならざりしかば、三十六年十一月松井順三氏有志と相圖り、櫻ヶ岡に移し、更に大正八年四月出雲分院長末木千代吉氏、松井順三氏外有志と相圖り、此の地に移したるものなり。

二、寺院

市内古寺巨刹に乏しからず、現存せるもの六十一ヶ寺にして之を類列すれば曹洞宗に屬するもの二十一、淨土宗に屬するもの二十、其他眞宗七、眞言宗五、臨濟宗三、天台宗一、法華宗二、其他一なりとす。

△寺院一覽

寺	號	所在地	宗派	本尊	創立年月日	境内坪數	壇信徒數
龍運寺	船	淨土宗	阿彌陀如來	慶長六年	一、〇七六、九二	一一一	
眞關寺	關屋	全	無量壽佛	貞治五年	一、三四二、五四	四、七四八	



西	三	樹	龍	專	勢	竹	法	東	善	全	觀	稱	觀	淨	太	源	賢	興	西	龍	日	梧
院	院	院	院	軒	軒	軒	院	院	院	院	院	院	院	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	院	院
關	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
屋																						

淨	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
土																						
宗																						

阿	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
彌																						
陀																						
佛																						

慶	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永	永
長	享	和	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿	祿
四	三	元	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四

盛	長	喜	花	長	正	全	智	清	祥	一	西	龍	東	常	神	本	淨	正	蓮	應	仁	唯	願
院	院	寺	院	寺	寺	院	院	寺	寺	院	院	院	院	院	院	院	院	院	院	院	院	院	院

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
新	中	花	東	飯	飯	東	東	岩	全	全	岩	三	瓦	紺	花	全	全	全	全	全	全	全	全
錢	世	田	田	南	南	田	田	崎	居	屋	崎	崎	崎	屋	園	全	全	全	全	全	全	全	全

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天
臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺	臺

釋	阿	聖	釋	觀	千	釋	阿	華	十	阿	正	釋	觀	虛	大	阿	全	全	全	全	全	全	全
迦	彌	觀	迦	世	體	迦	彌	師	一	彌	觀	迦	世	空	日	彌	全	全	全	全	全	全	全
如	陀	世	如	音	骨	如	陀	如	面	陀	世	如	世	藏	如	陀	全	全	全	全	全	全	全
來	來	音	來	音	地	來	來	來	觀	來	音	來	音	菩薩	來	來	全	全	全	全	全	全	全

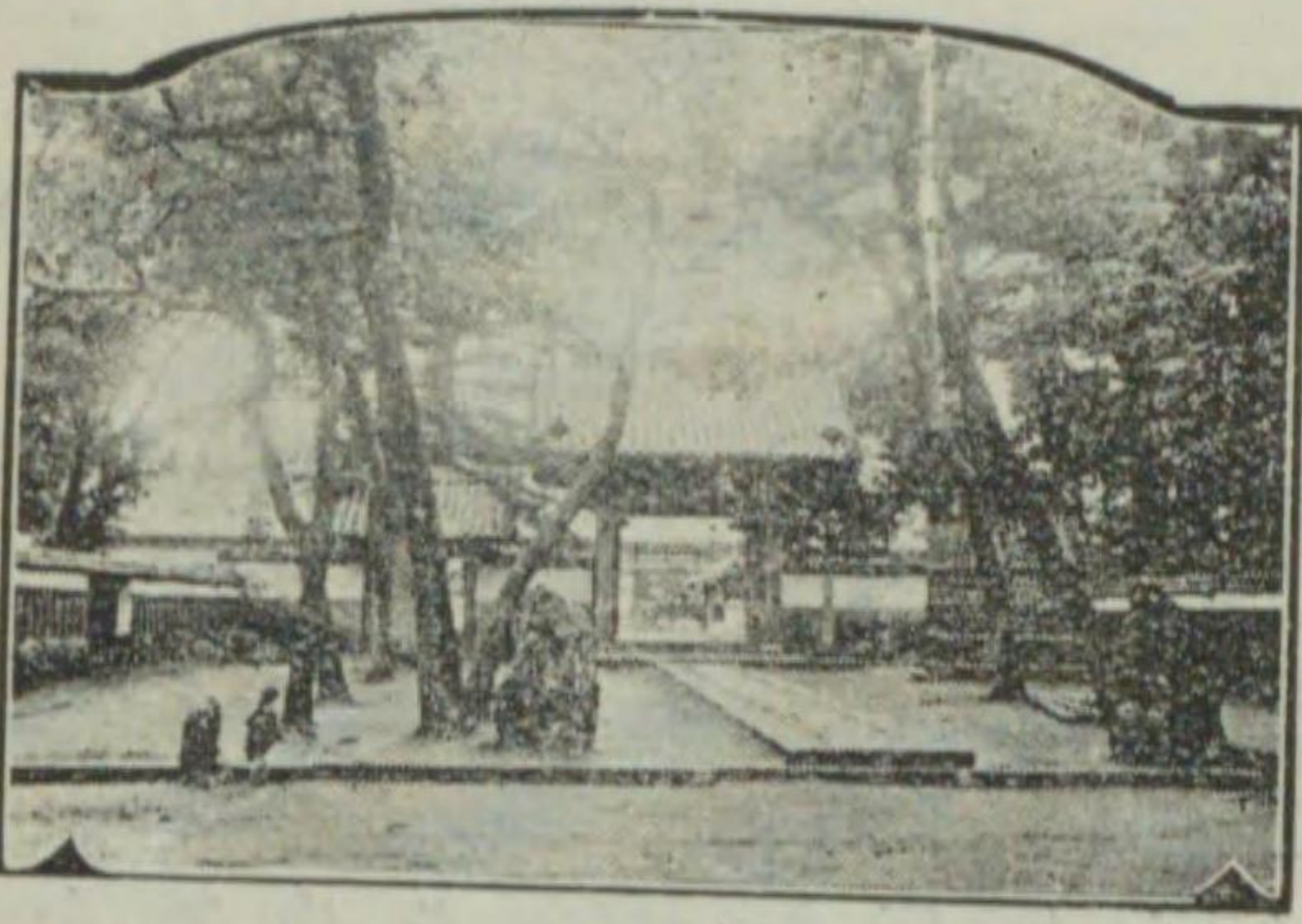
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
明	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天
德	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五



妙圓寺	清水	顯本法華宗	妙法首題	文祿元年壬辰年	七三三、一〇〇	一、五四〇
本門寺	東田	全	不動明王	大正十二年	四〇〇、〇〇〇	二五
青龍寺	飽海	真言宗	全	不詳	二三六、〇〇〇	八五〇
清寶院	中世古	全	全	元祿元年戊辰九月	一六四、〇〇〇	五〇〇
大聖寺	花田(石塚)	全	全	天正四年丙子年	二〇五、〇〇〇	五二五
寶形院	全(齊藤)	全	全	不詳	一、四六四、〇〇〇	七〇〇
不動院	瓦町	全	釋迦如來	全	五四二、〇〇〇	五〇四
臨濟寺	東田(東郷)	臨濟宗	釋迦如來	正保四年正月	一、七九八、〇〇〇	一五
壽泉寺	瓦町	全	地藏尊	不詳	三五五、一八〇	二〇一
吉祥寺	飯(本郷)	全	釋迦如來	全	五五六、〇〇〇	一三一

△著名の寺院

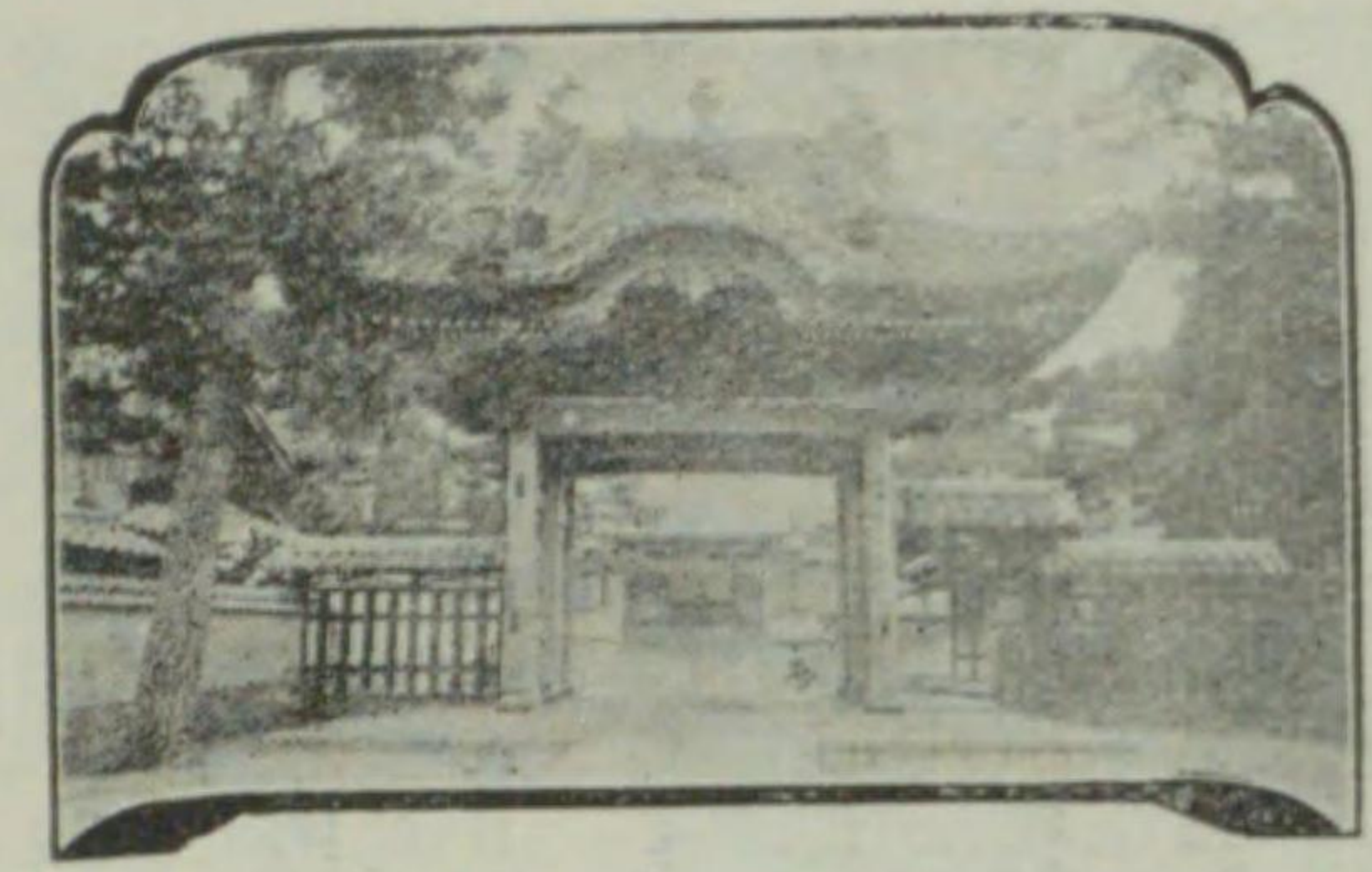


龍拈寺山門

◇吉田山龍拈寺 吉屋町にあり。曹洞宗に屬す。悟真寺と共に本市二天巨利の一にして、寺前の老松亭々として、高く聳え、人をして徐ろにその由緒を忍ばしむ。傳へいふ、本寺は大永初年の創設にして、牧野傳左衛門成三の建立に屬するものなり。本堂、庫裡、書院、倉庫、羅漢堂、庚申堂等各其建築年代を異にす。いへども、葺を連ね軒を接して完備し、其他日信院、禪慶院、盛涼院、長養院等の塔司も亦此内にあり。山門は元祿六年の建立に係り鐘樓は寛文元年の建築にして本市に於ける公的建築物中最舊のもの、一なり。本尊は十二面觀音にして、長さ五寸許、木彫の座像なり。別に長一尺六寸の全一立像もあり。いふ。境域約二千坪。外に塔寺の境域四ヶ寺を合せて七百卅五坪あり。寺寶中牧野古白内室の畫像松平清康妻華陽夫人の畫像、英彭和尚の寫經、休屋宗官和尚並に白洲嚴龍和尚の遺書等殊に知られたり。當時の始祖休屋宗官和尚は興德寺四代の住僧にして、龍拈寺の創設と共に興德寺をその隱居寺となし、爾來興德寺には住職を置かざる事せしが故に、同寺の開祖盛禪洞和和尚を以て開山とするに至れり。而して開山堂には道元禪師を始め當時數代の木像安置せられ、古雅掬すべきものあり。禪慶院盛涼院等の本尊と共に、よくその代の特徴傑作を忍ばしむ。



牧野古白墳



悟真寺山門

◇孤峯山悟真寺 關屋町にあり。市内屈指の名刹にして、淨土宗に屬し、境内千三百五十坪、總門、中門、本堂等の建築は古雅掬すべく、庫裡、鐘樓、大書院、小書院、寶庫等頗る完備して、一見名利巨寺たるを知るべし。本尊は無量壽佛にして、元中九年(明往三年)の創立に屬し、本堂前の露像は阿彌陀佛の座像にして、天文五年京都大佛の佛具師西村左近の製作に係る。いふ。又庫裡に安置する阿彌陀如來立像は、長さ三尺二寸五分にして、もこ塔頭西岸院にありしものなり。いふ。傳へいふ、當寺は鎌倉光明寺良忠上人の法孫善忠寂翁上人の開基にして、正平(貞治)中笈を負ふて此地に來り淨業院を創立せしが當時上人の徳を慕ひて遠近より來り集るもの多く、住僧三百以上に達し、令聞四方に高かりしかば後小松天



皇は之を宮中に聘して無量壽經を講せしめ、且つ勅題、紫衣、綸旨等を下賜せられしことあり。而して本寺はも今橋城址邊にありたるものなれども、永正二年牧野古白築城の際茲に移し、寺名をも今の名に改めたるものなり。

本尊無量壽佛は座像にして享保六年七月京都誓願寺の本尊に形どりに刻みたるものなりといふ。胎内には木彫の三尊佛を安置す。何れも立像にして阿彌陀如來一尺五寸、觀音勢至共に八寸なり。惠心院僧都の作とあれど明ならず。

總門を入れば左右に善忠院、全宗軒、東高院、法藏院、西禪院、三味院、竹意軒、勢至軒、專稱軒、龍興院、樹松院等の塔頭並立し、本尊阿彌陀如來を安置す。何れも古色愛すべし、中にも龍興院のものは五尺の座像にして、土肥實平がその母の菩提を吊はんがために製作し、雲の谷普門寺にありしものを茲に移したるものなりといふ。又專稱軒の本尊は三尺二寸五分の立像にして、全身蒔繪を施し共に一種の様式を異にす。

現在の書院は明治十一年十月明治天皇東海道行幸の際、行在所と定められたる所なり。又當寺製造の納豆は舊幕時代内命によりて京都御所に献上せしものにして、當時陽成天皇の宸翰六字の名號、並に後水尾天皇の御製を下賜せられしことあり。納豆に八橋の名を冠するも茲に始まりといふ。

御水尾天皇御製

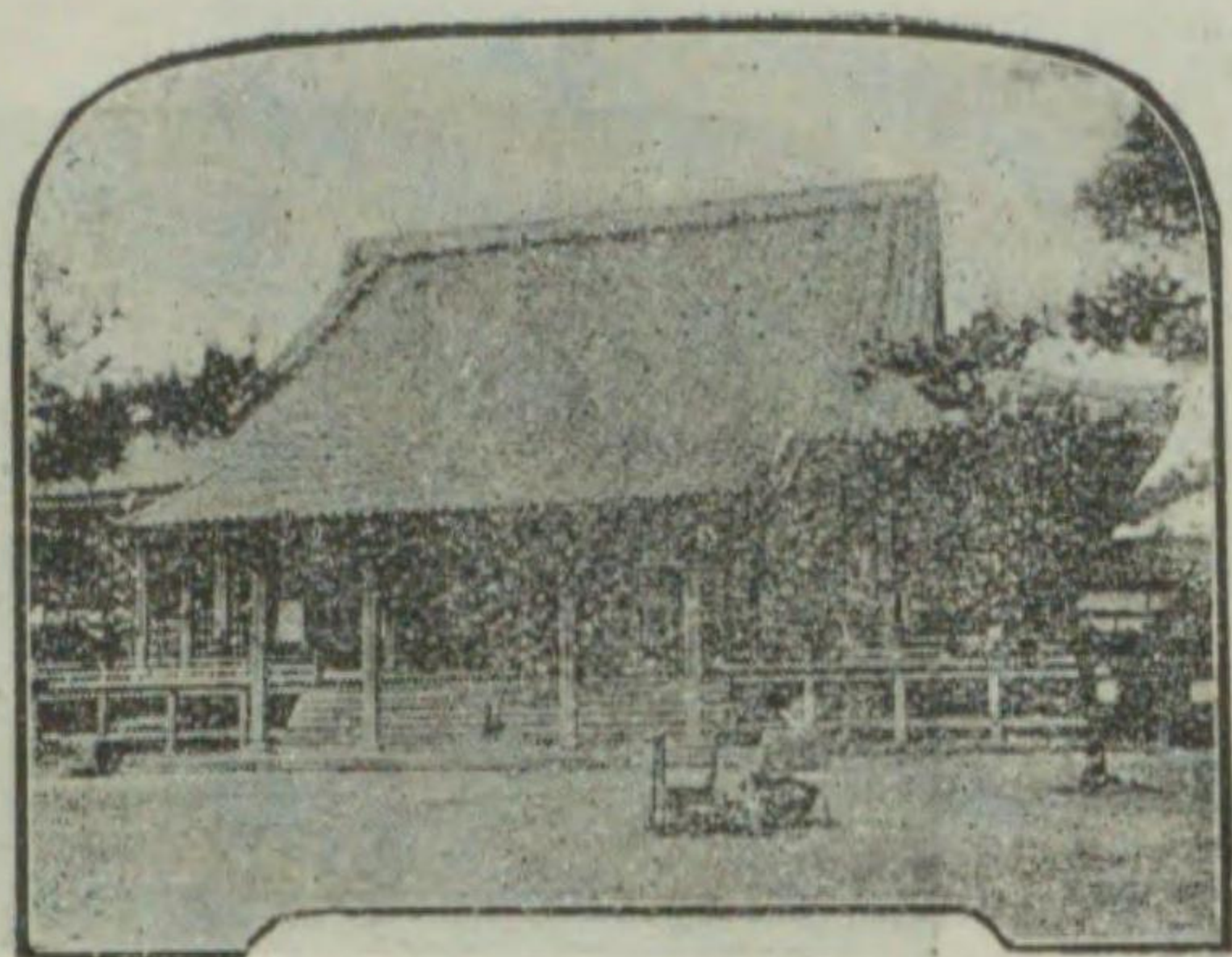
ひくしはに、渡りかゝれば三河なる

濱名はおちてこゝは八橋

◇稱名院 松葉町なる森上と稱する高地にあり。境域三百三十二坪、寛永十三年悟真寺の隱居寺として建てたるものにして、明治四十四年光明寺が名古屋に移轉せし際、一切本寺に讓渡せられしを以て、全寺の本尊阿彌陀如來も亦茲にありといふ。

◇普門山觀音寺

悟真寺境域にあり。もご指笠町にありしものを明治四十年七月茲に移したるものなり。本尊は木彫阿彌陀如來の立像にして、觀音堂には十一面觀音安置せらる。堂側に生花松月堂古流始祖法眼一露翁の碑あり。翁は安永四年遊歴の途次此寺に俺留し、多數の門生を得たりといふ。



本願寺別院

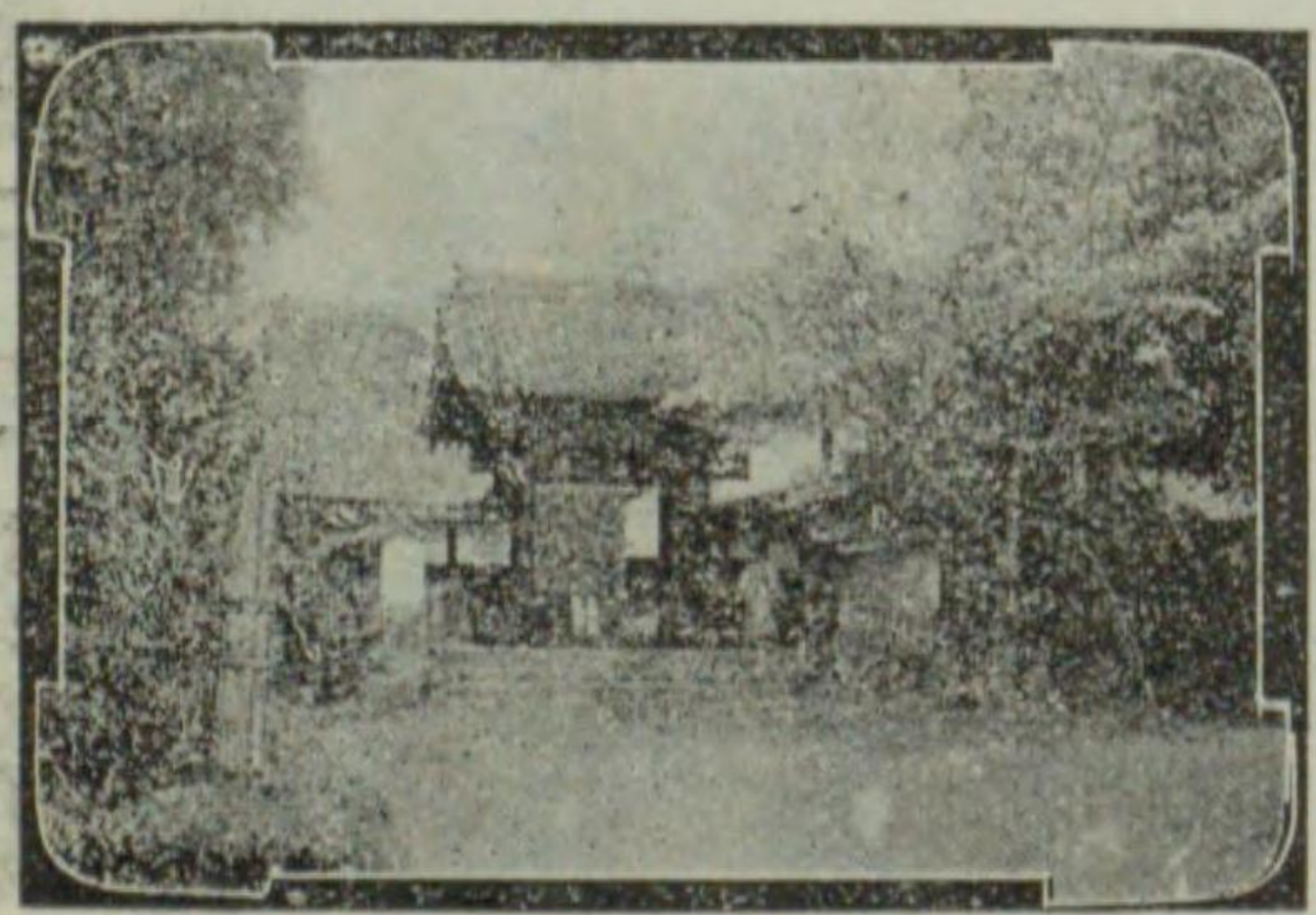
◇本願寺別院 花園町にあり。本市巨利の一にして、眞宗大谷派に屬し、境域約四百五十餘坪あり。本堂、座敷、廣間、鐘樓、山門等何れも近年の建築に屬すといへども、獨鐘樓は寛永十一年の建立にして、市に於ける最古建築物の一なり。蓋し當寺は寛永初年の創立にして初めは西笠山誓念寺と稱せしが、後之を吉田御坊と稱し、明治十二年二月更に豊橋別院と稱するに至れり。

山門前には蓮泉、正淋、應通、淨圓、仁長の五ヶ寺並立せり。蓮泉寺は正平十六年の建立にして、南朝の遺臣舟橋兵庫亮慶信の開基に屬し、正淋

寺は永正六年の創設にして、玄榮の開基に係れり。又應通、淨圓の兩寺は共に大永の初めに建立したるものにして、前者は源明法師、後者は了證法師の開基なり。何れも今の牛川地方に建立したりしが、天正二年其位置を變ずる必要上、現位置に移轉したるものなり。尙境内には福谷啓吉の墓あり。五ヶ寺の境内を合せて千三百七十六坪あり。本尊は何れも木彫阿彌陀佛の立像なり。又五ヶ寺中最も建築の古きものは淨圓寺にして、本堂庫裡經堂等見るべきもの多し。

◇仙壽山全久院

東田町二連木城趾の西南にあり。曹洞宗に屬し、寺域二千三百餘坪

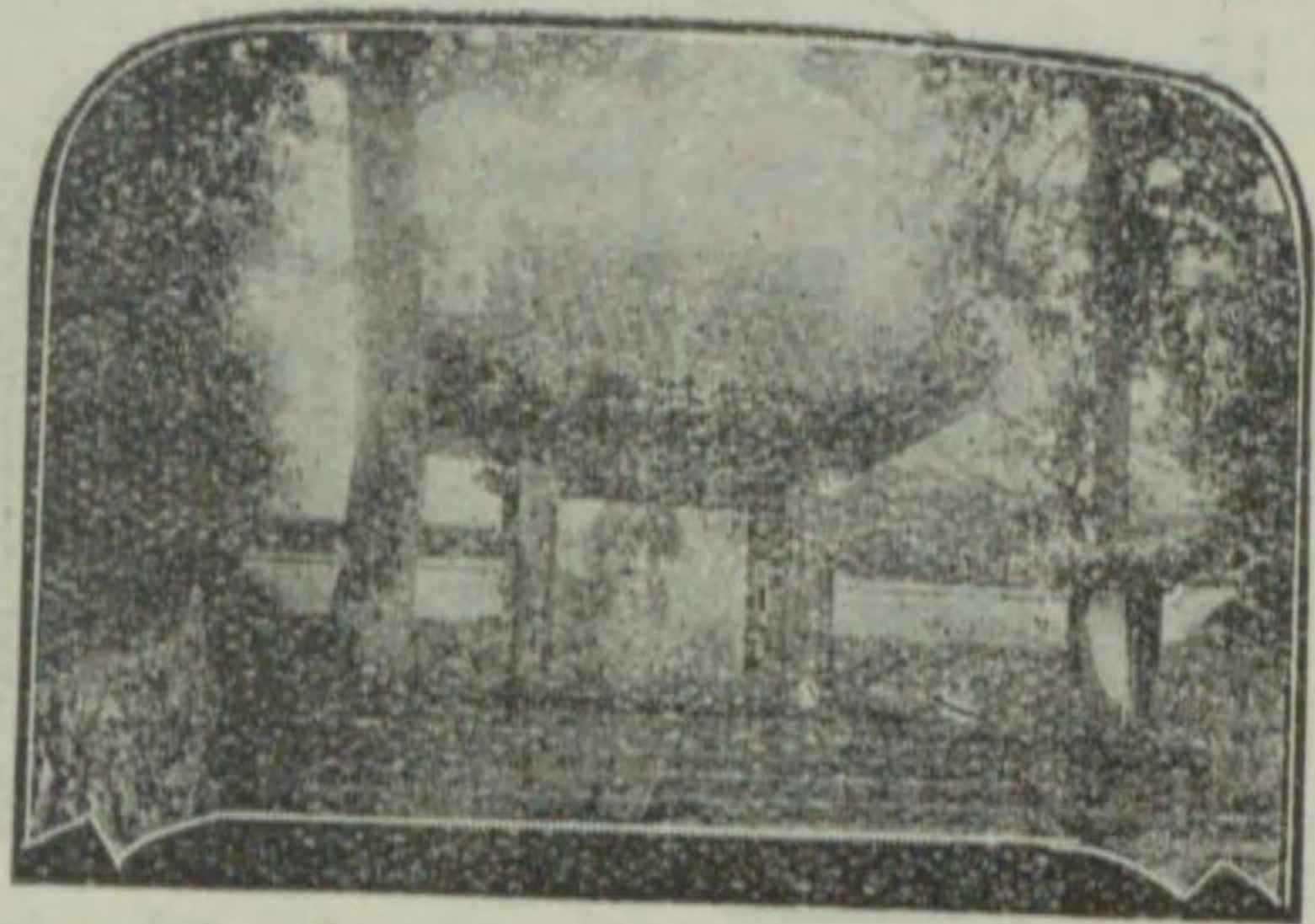


本院全久の前築改堂本



頗る幽邃の地なり。傳へいふ、大永三年戸田彈正亮憲光の創設に屬す。開基は光國舜玉禪師にして、今川父子の寄附狀、徳川歴代の朱印狀等、寺寶として貴重なるもの多し。寺名は憲光の父の法名にして、其菩提を吊はんがために憲光の建立したるものなりといふ。

境内に戸田氏累代の墓あり。多くは後世に至り追善供養のため建立したるものにして、中には康長の夫人、松君（東照公の同母妹）の墓もあり。



臨濟寺山門

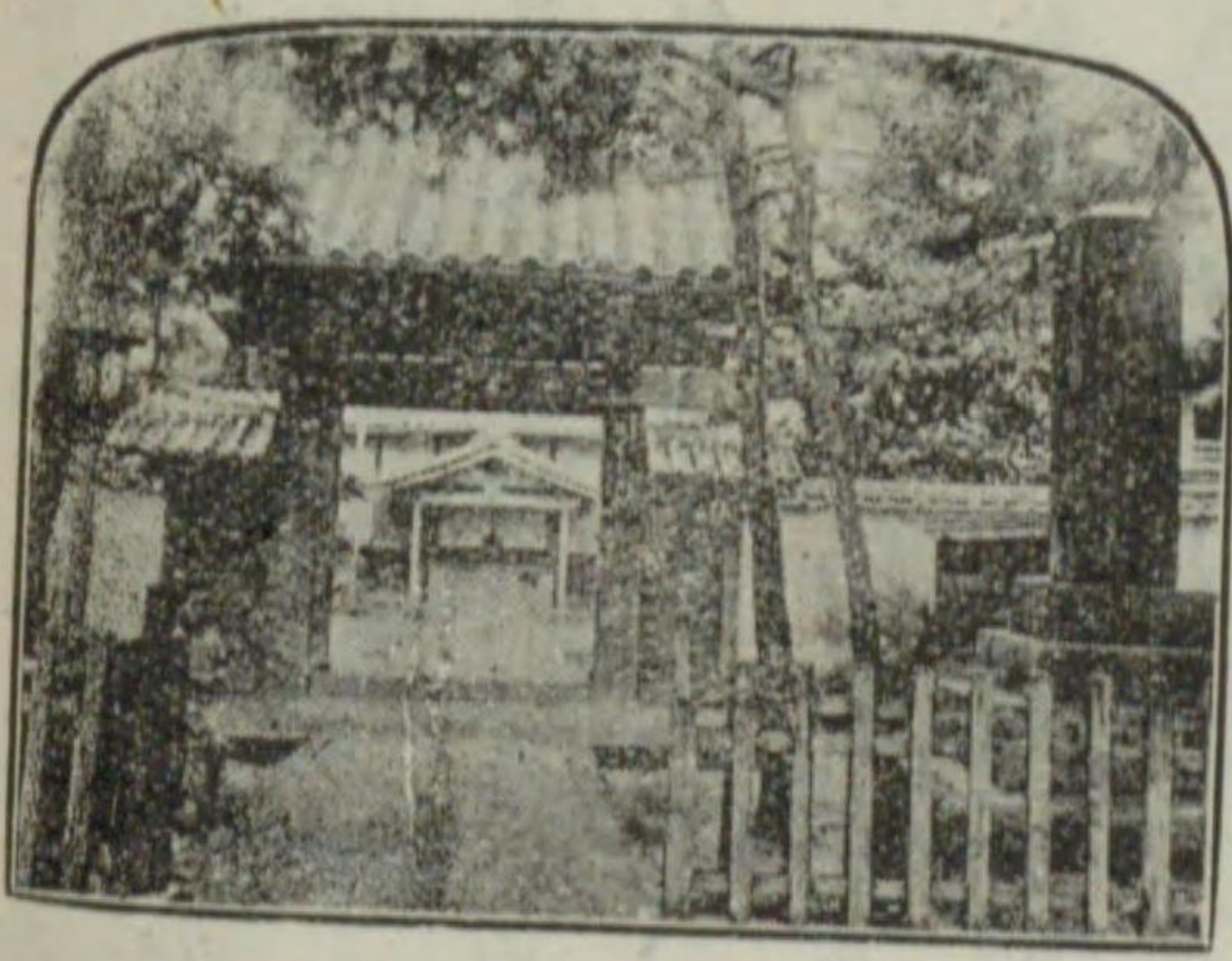
◇運立山妙圓寺

清水町にあり。京都妙滿寺の末派にして、顯本法華宗に屬す。境域七百三十四坪、本寺は元祿二年四月、池田輝政の建立したるものにして、當時輝政は遠州吉美妙立寺の住職日圓上人を信賴し、屢々請して教を乞ひ又其二子の教育をも托せしが、その休憩所は即ち本寺の前身たりしものなりといふ。而して始め妙立寺といひしが元祿十二年今の名に改むるに至れり。

寺寶日蓮、日經、日圓各上人の蔓陀羅を始め、古書畫多しといふ。

◇萬年山臨濟寺

全久院西にあり。吉田藩主小笠原忠知が豊後杵築に於て、父秀政追善のため建立したるものなりしが、承應二年之を飽海に移し、更に忠知の子長矩に至りて、此處に移したるものなりといふ。境域千八百坪なれども、維新後殆ど荒廢に歸し、今は全く古の面影をこどめず。

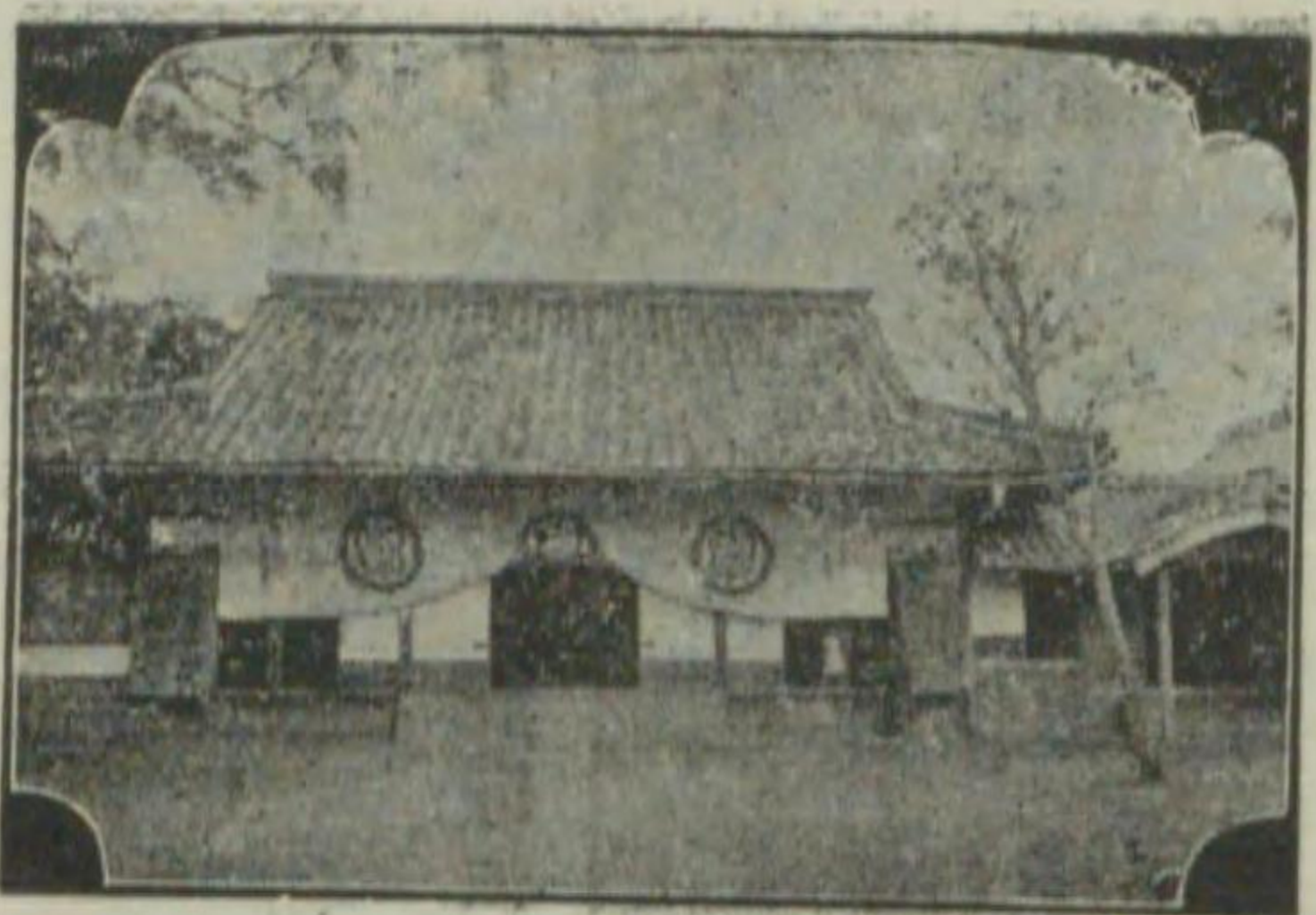


妙圓寺

小笠原氏累代（忠知以下長祐に至る）の墳墓あり。

◇正林寺

松山にあり。弘長二年の創設にして元鎌倉建長寺の末寺にして境域頗る廣く規模頗る大なるものなりしが、その後廢頽して、今は四百八十餘坪に過ぎず。曹洞宗に屬す。開山は春岳榮陽尼にして、本尊は寶冠の釋迦の外干躰骨地藏を安置せり。春岳榮陽尼は筑紫の人、原田次郎種猶の妻なり。傳へいふ。種猶執權北條經時の世、鎌倉に出生し、全僚高橋修理の讒にあひ、土牢に幽せらるゝこゝ三十三年、一子花若父を慕ふの念深く、佛法に歸依し、十三歳の時家臣を伴ひて鎌倉に至り、父が戦跡を尋ね戦



正林寺

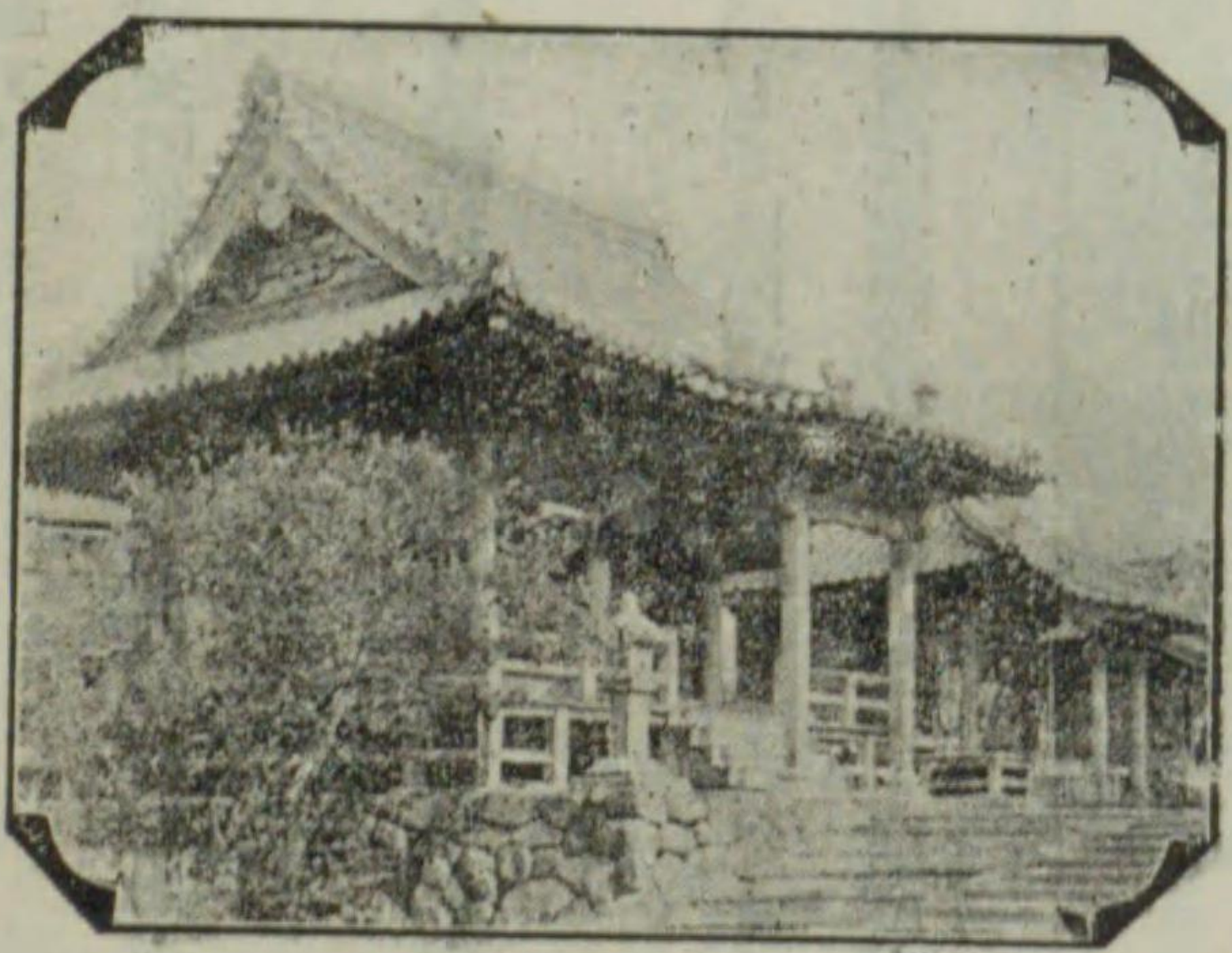


興徳寺地蔵像

士の遺骨を拾集して粉こし、之を以て干躰の地藏尊を作り、家臣に負はしめて市内を巡錫せるが、遂に執權時宗の聽く所となり、召されて政廳に至り、法談に依りて父に面會するを得、其冤罪を明にして、新に三河足助の庄を賜りたり。偏に佛法の加護によるものみなし、地を茲にトして、一寺正林寺を建立せるものなり。

◇橋本山龍運寺

船町にあり。天正年間の創建にして、境域千餘坪、淨土宗鎮西派に屬す。寛永十三年及び延寶八年の大洪水にて、堂宇悉く破壊し、明治十七年二月の類焼によりて昔の面影を存せず、ひゞり觀音堂は元祿二年二月の建築に係り



龍雲寺

58  
13



今に存し古閑掬すべし。本尊は阿彌陀如來にして、觀音堂には如意輪觀世音の像を安置す。

◇今橋山興德寺 上傳馬にあり、曹洞宗に屬す。創立年月を詳にせずといへども、文明年間にあるものゝ如し。本尊は、延命地藏菩薩にして、高さ三尺餘の木像なり。

◇賢養院 上傳馬にあり、天文年間の創立にして、もこ興德寺の塔司なりしが今は龍拈寺の末寺に屬せり。境内に近松の淨瑠璃に知られたる關の小方の墓あるを以て知られたり。

◇五福山喜見寺 新錢町にあり。元中七年吉見太郎の創立にして、境域五百餘坪。もこは臨濟宗に屬し、吉見寺に號し鎌倉建長寺の末寺なりしが、大永五年五月龍拈寺の末寺となり、曹洞宗となり。本尊は聖觀音菩薩にして、別に文珠堂あり。文珠菩薩を安置す。好古の一資料なり。傳へいふ。本菩薩は隣地にありたる妙徳寺所有のものなりしが、全寺の衰頹と共に、本寺に合併せられたるものなりこ。

◇白雲山神宮寺 紺屋町にあり。比叡山延曆寺の末寺にして、天臺宗に屬す。傳へいふ。此地にもこ長禪寺といふ禪寺院ありしが、本寺創設の際、之を再興したるものなりこ。寺は慶長元年の創立にして今は本堂、護摩堂、庫裡、聖天堂、地藏堂、唐中堂、鐘樓等よく備はれり。境域九百三十餘坪、本尊は大日如來の座像にして、高さ約三尺あり。もこ雲の谷普門寺にありしものを、始祖重信大僧都が靈夢に感じて勸請したるものなりこ。又護摩堂には木彫長さ二尺八寸の不動尊像あり。市内に於ける由緒深きものの一にして世に知られたり。



喜見寺文珠の像



神宮寺山門

して世に知られたり。

◇多聞山淨慈院 花田の内羽田中にあり。元吳言律宗たりしが、今は淨土宗に屬す。境域千餘坪。本堂觀音堂、地藏堂、毘沙門堂、庫裡、文珠堂、鐘樓、倉庫、經堂等あり。規模頗る大なり。本尊は名高き押合地藏なりしが、今は釋迦三尊を安置せり。本寺はもこ下野那須にありしを、寛又七年、當時開山良濟忍譽上人



淨慈院本院尊

之を脊負ふて諸國を巡錫し、此地を下して創設したるものなりこ。

◇西光寺 手間町にあり。曹洞宗に屬す。慶長六年二月の創立にして、本尊は阿彌陀如來にして、神宮寺より勸請せるものなり。境域四百餘坪、本堂、庫裡の外、觀音堂、地藏堂等の建築物を有す。

◇寶形院 花田なる齊藤にあり。大正二年十二月神明町より移轉したるものなり。境内一千五百坪信徒三百名あり。本堂建坪五十坪、附屬建物約百坪にして、現住職奥田萬通氏の經營によりて竣功したるものなり。又信徒中に報國婦人會あり。主として婦女子の國家的觀念を自覺せんがため設けられたるものにして、講演、講話、講習等をなし。必要に應じ、恤兵慈善の事業を行ふ。

境内に英靈殿あり。日清日露兩戰役の戦病死者の靈を祀る。

◇石塚山清源寺 花田町城海津にあり。淨土宗に屬す。天文三年宅譽上人の創立にして、本尊は木彫阿彌陀如來の座像なり。境域二百十五坪、由緒深きものこ稱すれども、舊記を焼失して知るに由なし。

◇大聖寺 花田町石塚にあり。眞言宗に屬す。天正四年寶飯郡篠塚より松葉町に移し、明治三十九年再び此の地に移したるものなり。本尊は不動明王にして、初め永寶院に稱せしが、文化二十五年今の様に改めたるものなりこいふ。境域



◇萬年山長全寺 花田町羽田中にあり曹洞宗に屬す。龍拈寺五世禧慶宗鶴和向の開基にして、本尊は十一面觀世音たり。境域約六百五十坪、龍拈寺住職之を兼務す。境内には羽田野佐可喜翁の墳墓あり。

◇松山龍岩院 岩田町厨子にあり。曹洞宗に屬し天文八年の創立にして、釋迦如來を本尊とす。境域五百五十坪、本堂、庫裡、藥師堂等あり。

◇勝林山源立寺 岩田町田尻にあり。淨土宗に屬し、寛永七年二月法阿善立和尚の創立する所なり。本尊は阿彌陀如來にして、境域四百五十坪、本堂、庫裡、地藏堂、觀音堂、行者堂等あり。

三、教會

△神道教會

許可年月日	所屬教宗派名	名	稱	所在地
明治四十一年五月	神道大社	出雲大社	豐橋分院	東田町
全 十四年三月二十五日	神道修成派	神道修成派	教務支局	東田字朝倉三番地ノ一
全 三十四年三月二日	神道天理教	天理教	豐橋支會	石塚
全 三十五年	神道天理教	天理教南海大會紀尾分教會愛豐宣教所		旭一〇二番戶
全 四十三年十月二十日	神道金光教	金光教	豐橋教會所	松葉町
全 四十四年十二月廿七日	神道扶桑教	扶桑教	不動教會總本院	花田守下六三番地 花田種田二十四番地

△佛教教會

許可年月日	所屬教宗派名	名	稱	所在地
全 四十四年五月九日	神道御嶽教	御嶽教	天地教會本部第二號稻荷教會	東田字三反畑六〇ノ一
大正三年二月十二日	神道御嶽教	御嶽教	天地教會說教所	東田一八四番戶
全 三年九月二十三日	神道御嶽教	御嶽教	御嶽教會	旭町二二二地ノ六
全 七年一月三十一日	神道御嶽教	天理教南海大會東愛分教會愛靜宣教所		中世古七十七地
全 九年四月二十四日	神道御嶽教	御嶽教	日出教會	花田字東郷九番地
全 九年五月十三日	神道御嶽教	神道御嶽教所屬神誠教會愛知縣堂等支部		東田北臨濟寺十二番地

△基督教教會

許可年月日	所屬教宗派名	名	稱	所在地
明治十五年一月二十六日	曹洞宗	曹洞宗	醍醐派	花田字羽根井
全 二十七年四月十一日	眞言宗	眞言宗醍醐派	小社豐盛組教會所	吳服
全 三十二年三月十八日	臨濟宗	臨濟宗	妙心寺派	瓦町壽泉寺
全 三十二年三月十八日	臨濟宗	臨濟宗	妙心寺派	飯
全 三十九年八月十七日	眞言宗	眞言宗	高野山大師教會支會	瓦町不動院
全 四十五年四月七日	眞言宗	眞言宗	各派聯合	花田字大山塚
大正二年二月十日	眞言宗	眞言宗	蓮宗	松葉字西町
全 三年五月二十日	眞言宗	眞言宗	高野山大師教會豐橋市花田支部	西八四三合地ノ一七番戶
全 十年十二月二十二日	眞言宗	眞言宗	高野山大師教會梅井寺第二支部	船一四一四地ノ二

名	稱	所在地	名	稱	所在地
豐橋ハリストス正教會	中八	旭	日本基督教豐橋教會	旭	旭
日本メソヂスト豐橋教會	全	旭	日本基督教湊町講義所	港	旭
日本聖公教會 豐橋昇天教會	新川	旭	普及福音教會	旭	旭



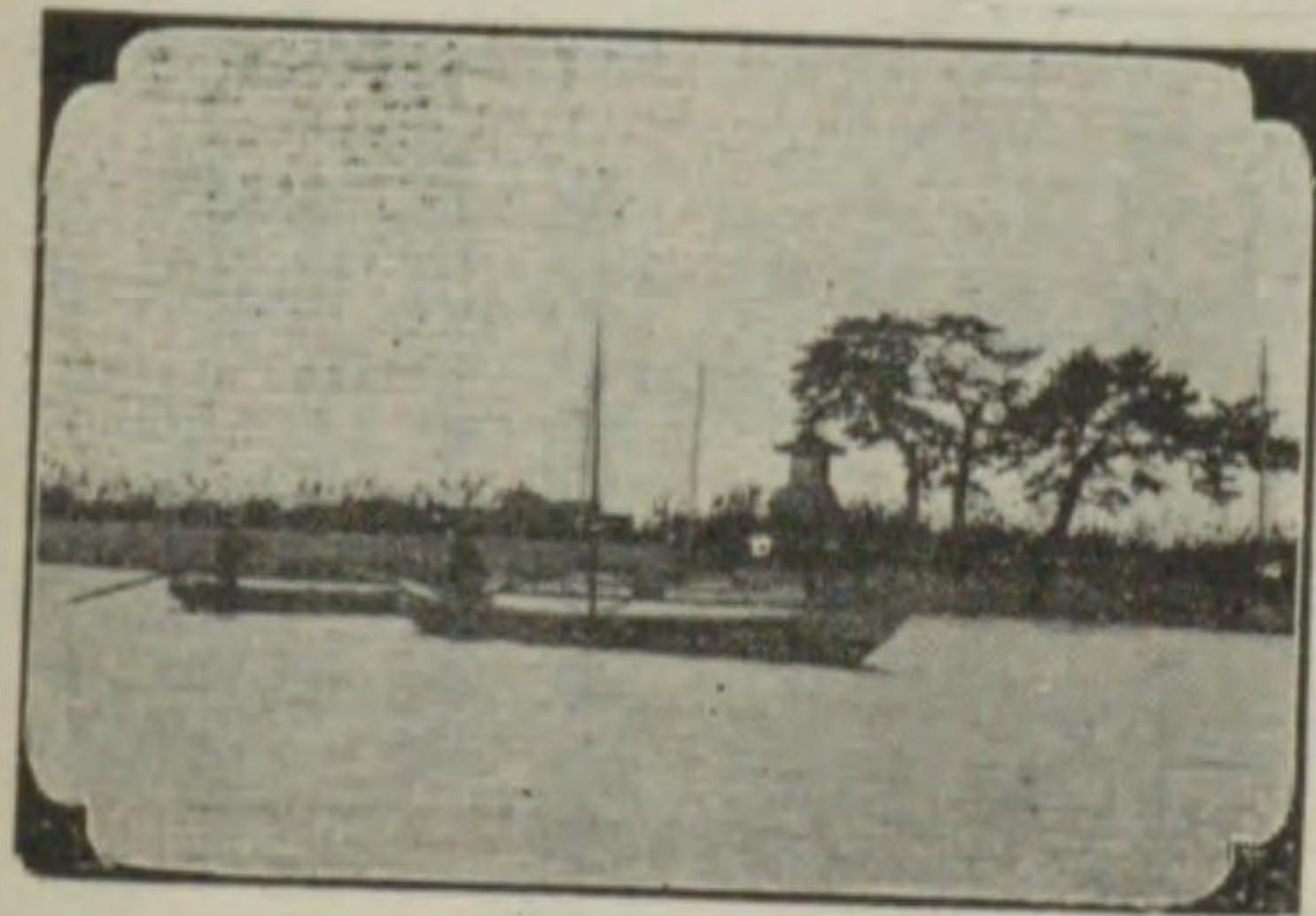
### 四、名勝史蹟

#### △市内名勝

◇豊 橋 豊川に架す、南豊橋市北寶飯郡下地町を連絡す鋼製構桁橋にして長八十一間二分幅五間大正五年七月十日竣工全十三日開通式舉行縣工事にして總工費十三万五千余圓大正二年地質調査を行ひ同三年九月着手同五年七月竣工まで三ヶ年に亘りて成る。往昔は吉田の大橋と稱し元龜元年酒井忠次吉田城主たりし時初めて關屋の地點に土橋を架せしが天正十八年池田輝政の吉田城主となり城地を擴張するに方り其翌十九年之を船町に移し擬寶珠高欄の木橋とせり。今の位置より約四十間の西方にありて長百二十間徳川幕府時代を通じて武藏の六郷三河の矢矧近江の瀬川の三橋と共に架換修繕皆直轄工事に屬したりき。

◇豊 川 愛知縣北設樂郡名倉山に發し南流して段嶺を過ぎ作手川を容れ南設樂郡長篠にて三輪川と合し、更に西南流して寶飯、八名、渥美、豊橋の三郡一市の界をなし寶飯郡前芝にて渥美灣に入る、延長十七里。流域風景に富む。

◇吉田城址 現在の歩兵第十八聯隊衛戍は即ち吉田城址にして豊川の清流に臨み寶飯、八名の平野を一望に收め老松古木々々として天を摩す永正二年牧野古白が築く所初め今橋城といひ後吉田城と改む、永祿八年酒井忠次擴張修築を加へ天正十八年池田輝政東參に移封せらるるの後更に擴張したるも明治四年廢藩の後其外郭を壊ち酒井氏の舊に復す面積凡そ三萬七千七百坪を有す。



豊川の清流



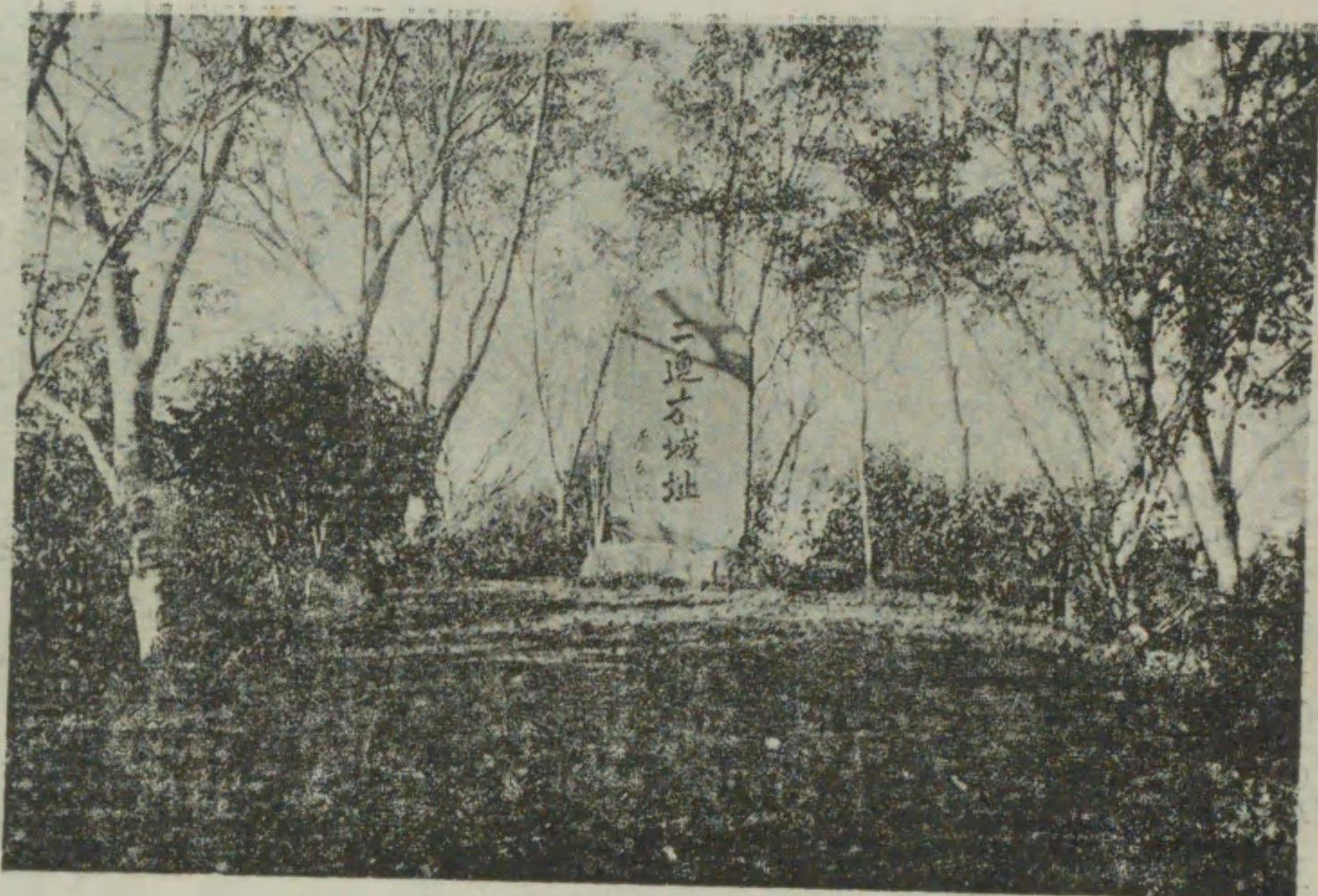
吉田城址

牧野古白築城後牧野戸田兩氏争鬪の衝に當り二氏迭に此城に主たるもの三十年然る後駿河の今川氏の管する所となり、城代を置きて之を成るもの又三十年、永祿七年徳川家康之を收め其將酒井忠次をして主たらしむ、天正十八年豊臣秀吉家康を關東に遷し池田輝政を東三に封じて當城に居らしむ慶長六年關原役後家康再び之を收め、爾後徳川氏譜代小牧の治城となり松平氏（竹の谷）松平氏（深溝）水野氏、小笠原氏、久世氏、牧野氏を経て大河内氏に至り、更に本莊氏を経て寛延二年再び大河内氏此に治し以て廢藩に至る。

◇蓋原古戰場 豊橋市東田町地内高丘一帯の地にして元龜二年四月武田信玄自ら將して甲兵を率ひ、信濃より南下し、其先鋒山縣昌景等徑にこの地に至り先づ二連木城を陥れ以て吉田城に迫る、時に徳川家康濱松より歸りて吉田城にあり、城兵を戒めて輕々しく出でしめず甲兵戦を挑むに及び、酒井忠次戸田一西等をして出て闘はしむ勝敗未だ決せずして各兵を收む。

◇二連木城址 豊橋市東田町にあり。明應中田原（渥美郡）の戸田宗光の築く所傳へて其孫政光、政光の弟吉光に至る。田原の戸田は政光の子康光の時天文十六年亡びしが、是より先き天文十年康光の二男宜光二連木城に主とし二連木戸田の一家を起す。子重貞弟忠重相繼ぎて城主たり元龜天正の信玄の襲來勝頼の來攻に當りては、忠重の子康長幼少なりしが一族戸田吉國よく之



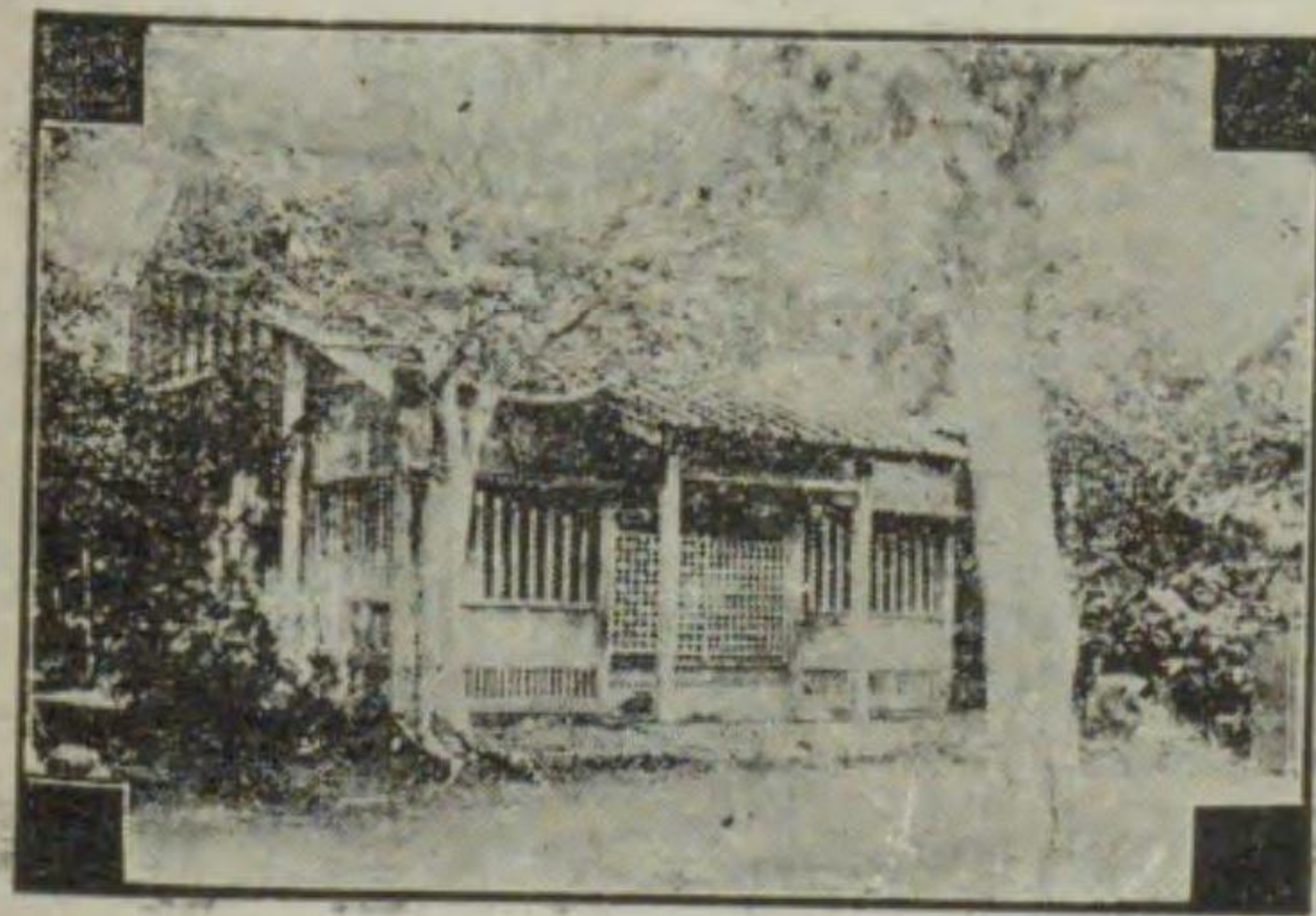


を扶けたり康長天正十八年徳川家康に從て關東に移る（武藏東方一萬石）に及びて城終に廢す築城より廢城に至る約百年間。今は大日喜六氏の有こなり農園を經營す。

仁 運 木 城 趾  
◇吉田藩蠻時習館址 豊橋市西八町にあり、寶曆二年吉田藩主松平信復の創設する所、一百二十年を経て、明治廢藩と共に廢せらる。爾後小學校を其地に建てたるも大正十三年學校を移轉し公園となす。

野敬雄の建てたるもの、當時藏書一萬三千六百餘卷を藏せしが、今は散逸し其大部分を豊橋市立圖書館に收藏す。此舊址には今僅に書庫のみを残せり。

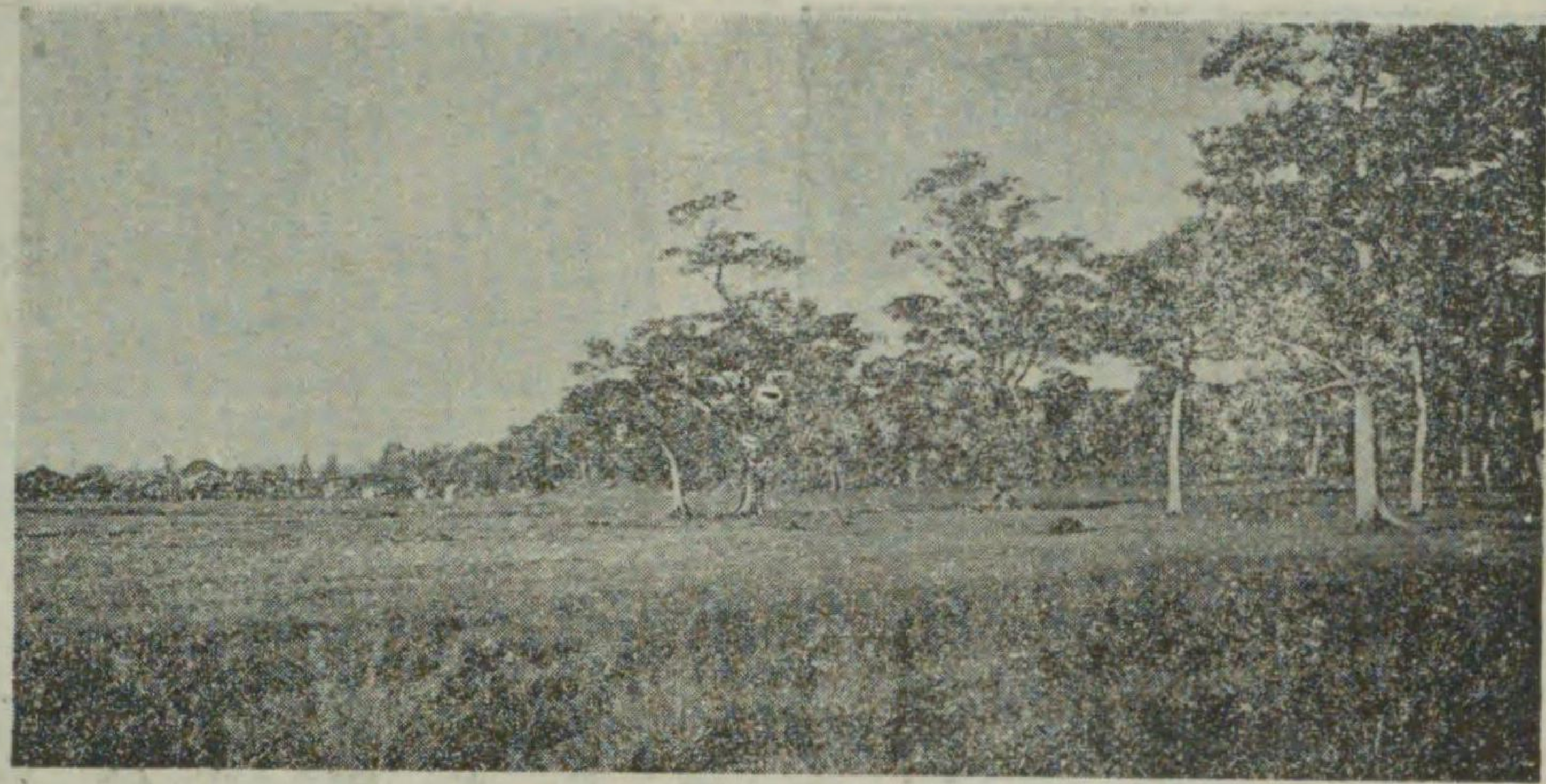
◇飽海新神戸址 天慶三年東國の兵亂平定の報賽として、三河國飽海新神戸十煙を伊勢皇太神宮に奉らる豊橋市飽海町附近は即其故址なり。



羽田文庫

◇東田古墳 東田神明社の附近にあり前方後圓をなす、明治十五年其前方部にて模造鳳文鏡を發掘す。

◇軍人記念碑 豊橋市練兵場にあり、明治維新以來國事に盡したる軍人の忠勇を表彰せんが爲めに明治三十年參演駿豆四國の有志者により建設せられたるものにして宮内省より金一百圓を下賜せられたり。碑



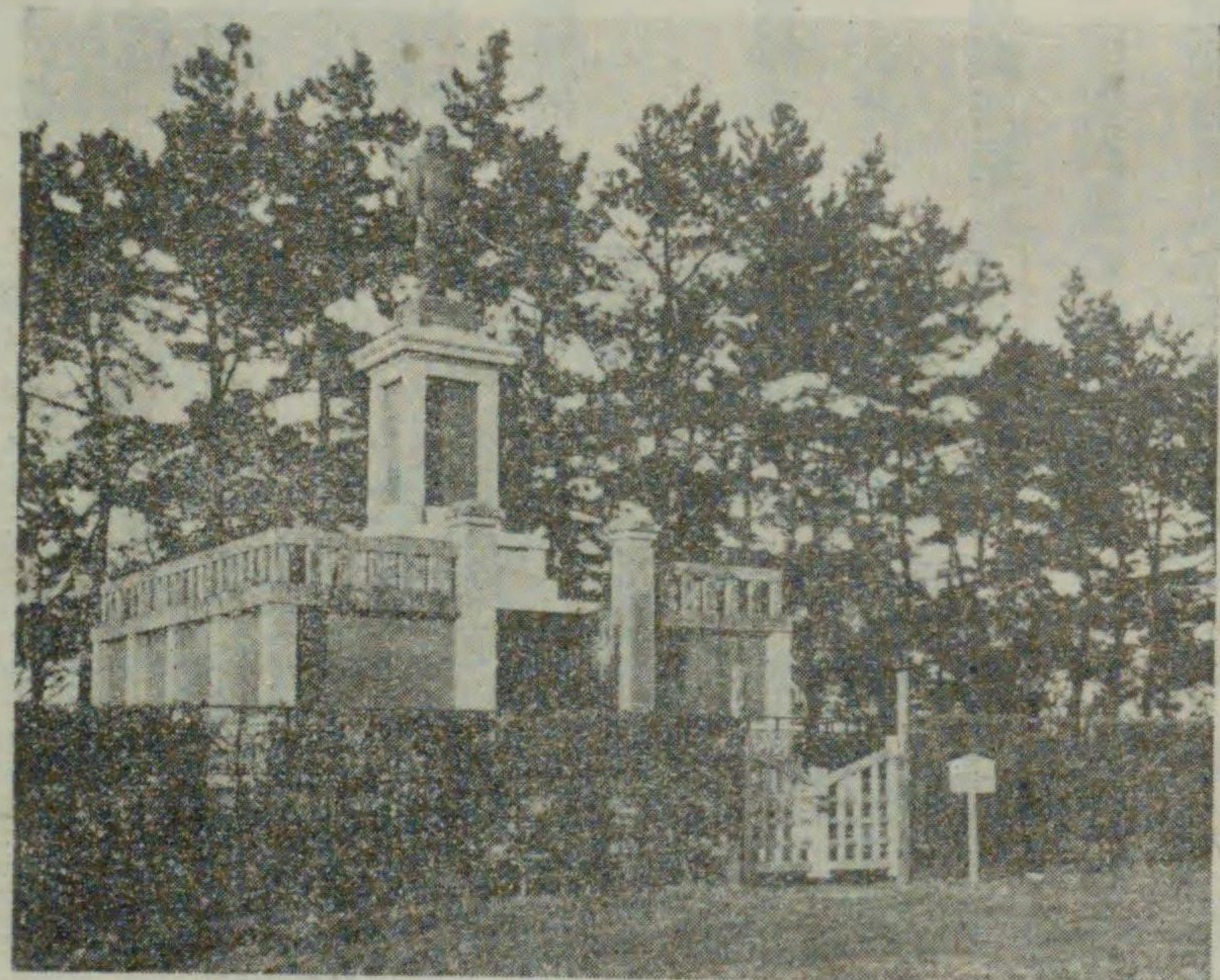
飽海新神戸（八町練兵場）

上に神武天皇の御銅像を安置せり、篆額は故小松宮彰仁親王の御染筆にかゝる。

◇明治天皇御小休所聖蹟 明治十一年九月洪水あり、豊橋流失す、時に明治天皇北陸東海道御巡幸に際す、愛知縣は爲めに三十日の短期間に假橋を急架し以て鳳輦を迎へ奉る。之によりて橋北御小休所に於て御馬車を御輿に代へさせられ、橋南御小休所（加藤氏方）に於て、更に御輿を御馬車に代へさせられて行在所悟眞寺に入らせたまふ

◇明治天皇行在所聖蹟

豊橋市關屋町悟眞寺にあり、明治十一年明治天皇北陸東海道御巡幸に際し十月三十日當市に御泊輦あらせられ當寺現在の書院を以て行在所に充てさせたまふ。



軍人記念碑

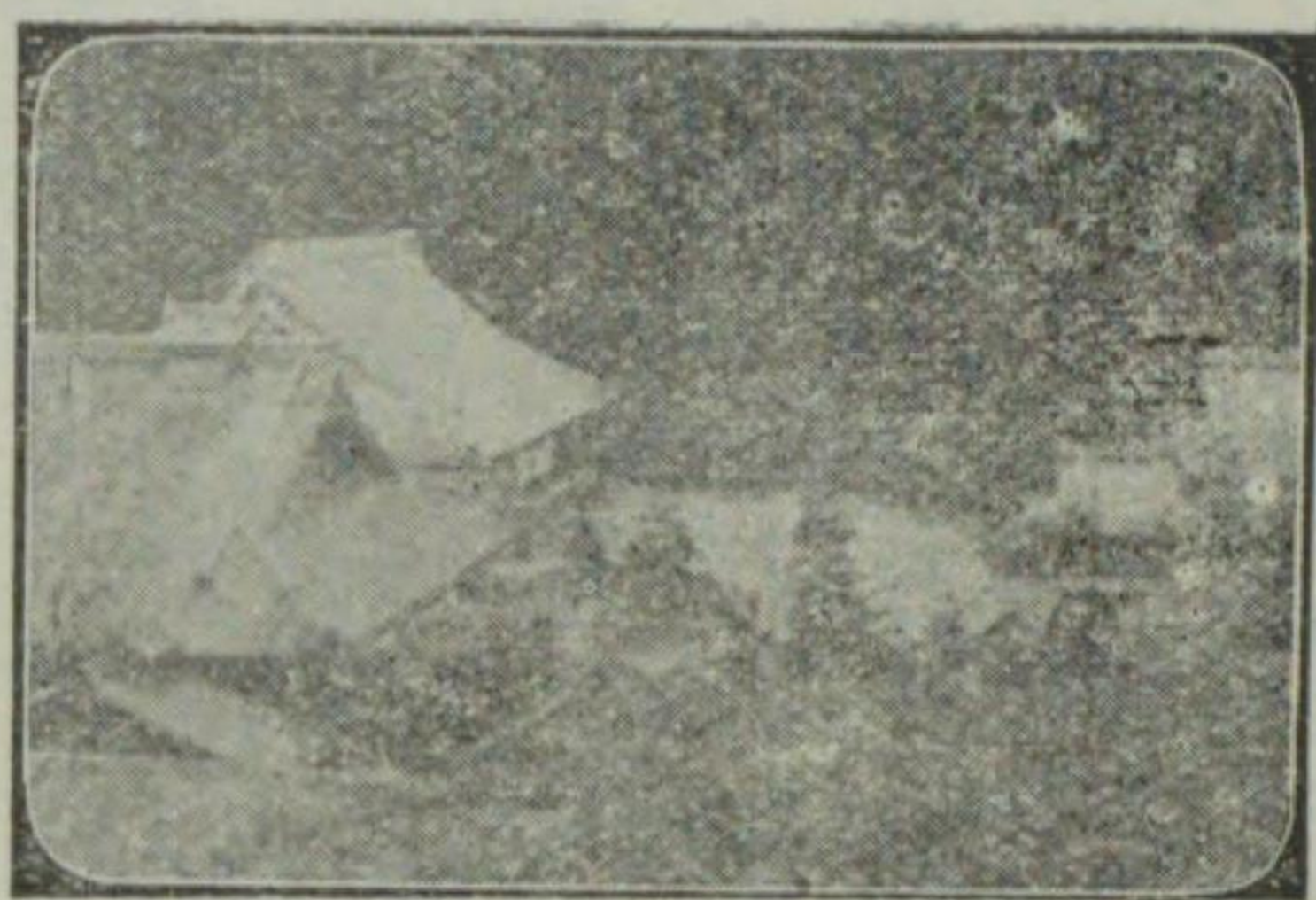
△附近名勝

◇石卷山

八名郡石卷村にあり中腹に延喜式内石卷神社を祀る。奇岩突兀ミして老樹の間に聳へ古來名山を以て



稱せらる。豊橋市を距る凡そ一里半



嵩山正宗寺

◇嵩山正宗寺 八名郡石卷村嵩山にあり臨濟宗に屬し境内頗る幽邃なり。畫家青雲の大

作を初め多くの名畫を藏し世に有名なり。豊橋市を距る凡そ三里

◇妙嚴寺 寶飯郡豊川町にあり舊來曹洞宗に屬する名刹なり寺内に咤根尼尊天を祀

る、世に豊川稻荷と稱するは即ち之なり、尊像は此寺の開山東海義易和尚五世の法祖寒嚴義

尹禪師が康元年中入唐の際感得したる處によりて、手

刻したるものにして家康、秀吉、信長等の諸將歸依せ

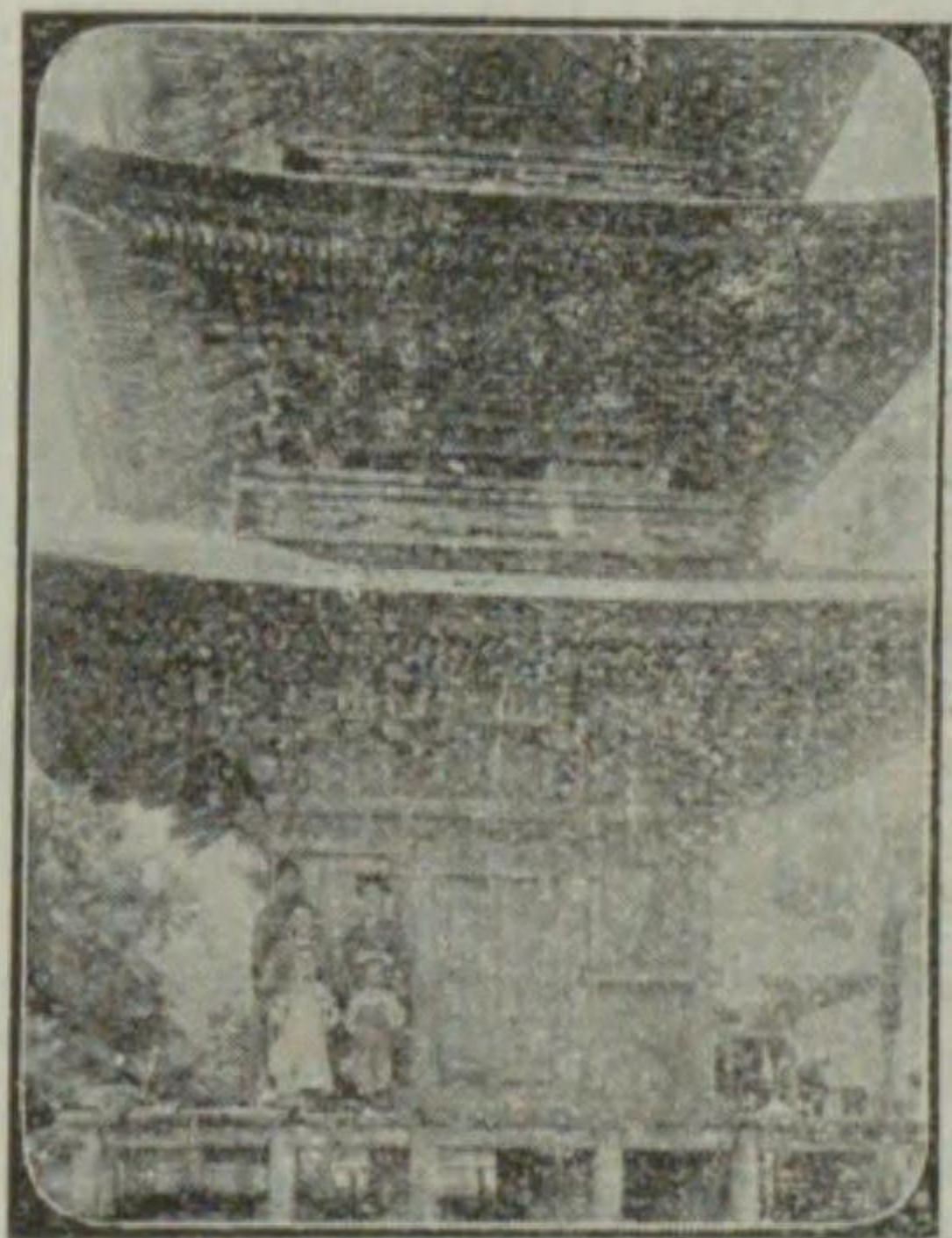
しこゝ殊に厚かりしといふ。

吉田驛より豊川鐵道によりて此處に至る、豊橋市を

距る凡そ二里。

◇三明寺

寶飯郡豊川町にあり、豊川鐵道豊



三明寺三重塔

川驛を距る僅に五六町。境域極めて幽邃なり。宇賀神並に天女の垂跡を傳ふる名跡にして寺

傳によれば大寶年間文武天皇の御願によりて創立せられたるものなりといふ。辨天の像を祀

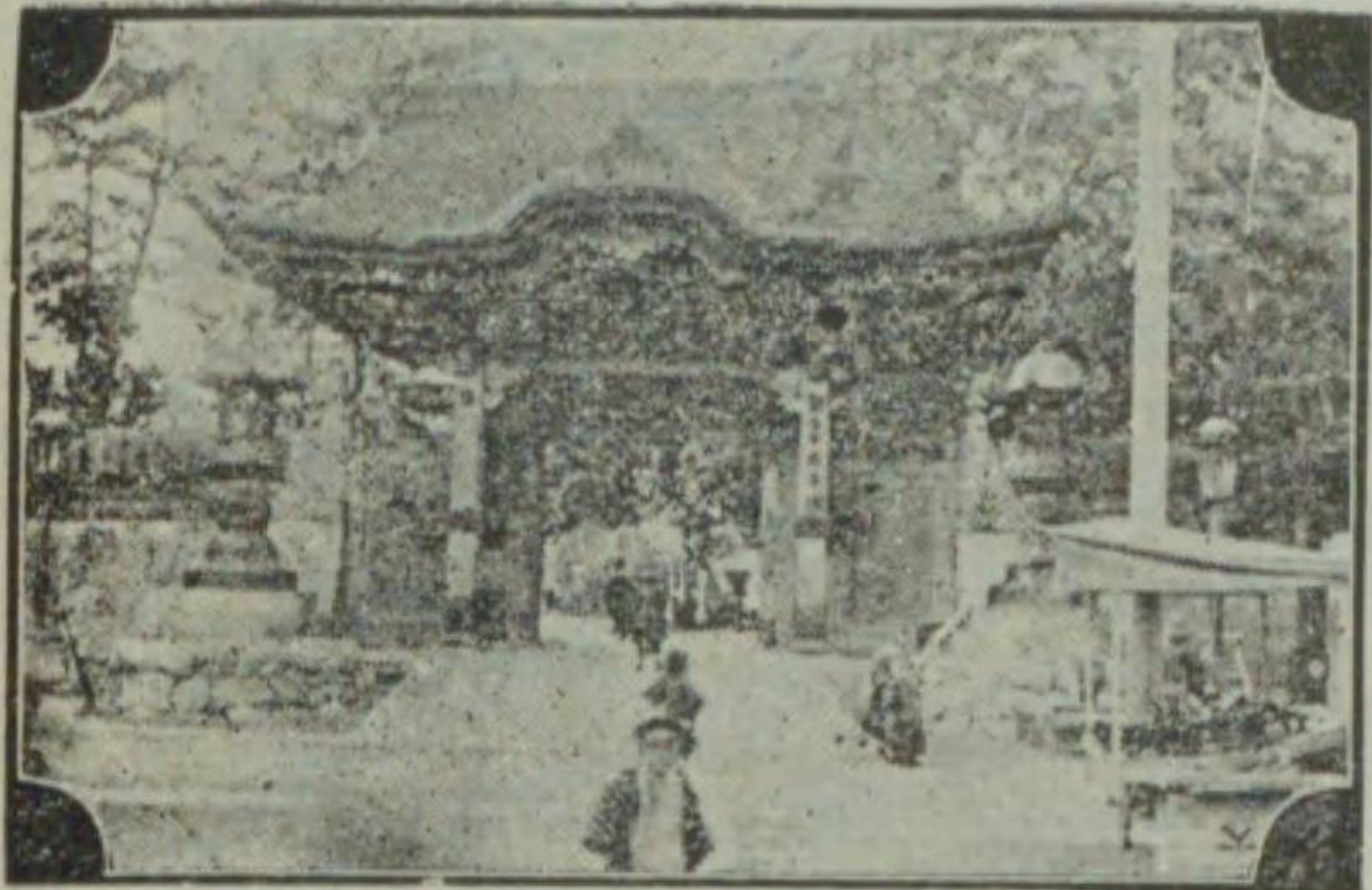
る三河國主大江定基の崇敬せし處にして寺内の三重塔は後醍醐天皇の第十一皇子無文禪師の

建立に屬し古雅掬すべく特別保護建造物たり。

◇長篠古戰場

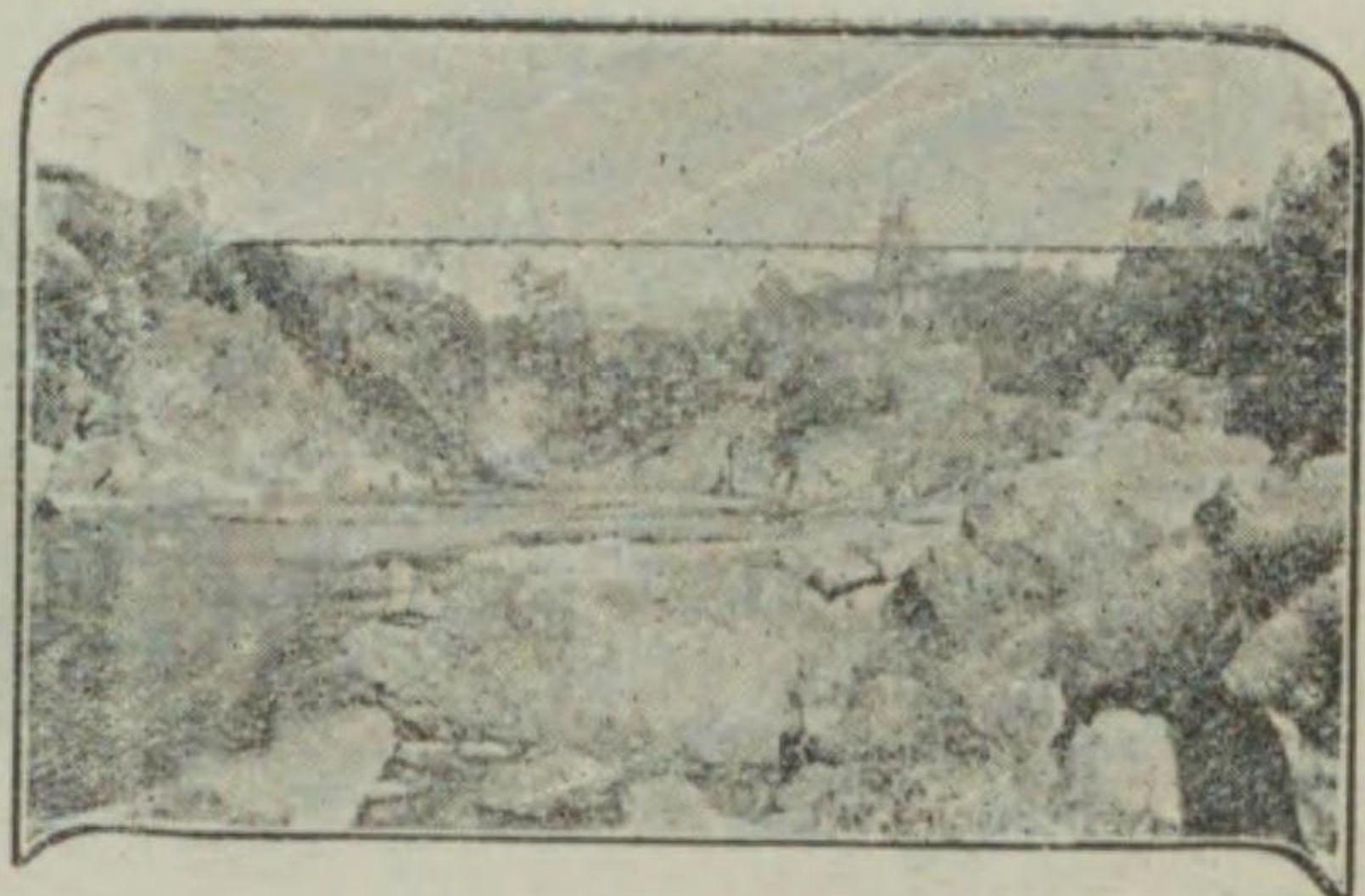
南設樂郡長篠村にありて寒狭川三輪川二流交叉の地を占む天正三年武田

勝頼徳川家康の將奥平信昌を此城に圍みしが家康、織田信長と來り援くるに及び勝頼の敗走



妙嚴寺總門

せし處なり、今尙城址を存す鳳來寺鐵道古城址驛の便あり。



長篠古戰場牛淵橋より



岩屋觀音

◇東觀音寺

渥美郡二川町字小松原にあり、

臨濟宗に屬し聖武天皇の御願により僧行基の創開

する處なりと稱す。寶物見るべきもの多し寺内の

多寶塔は大永二年藤田左京亮定光の寄進に係るも

のにして特別保護建造物なり。

豊橋市を距る凡そ三里。

◇岩屋山

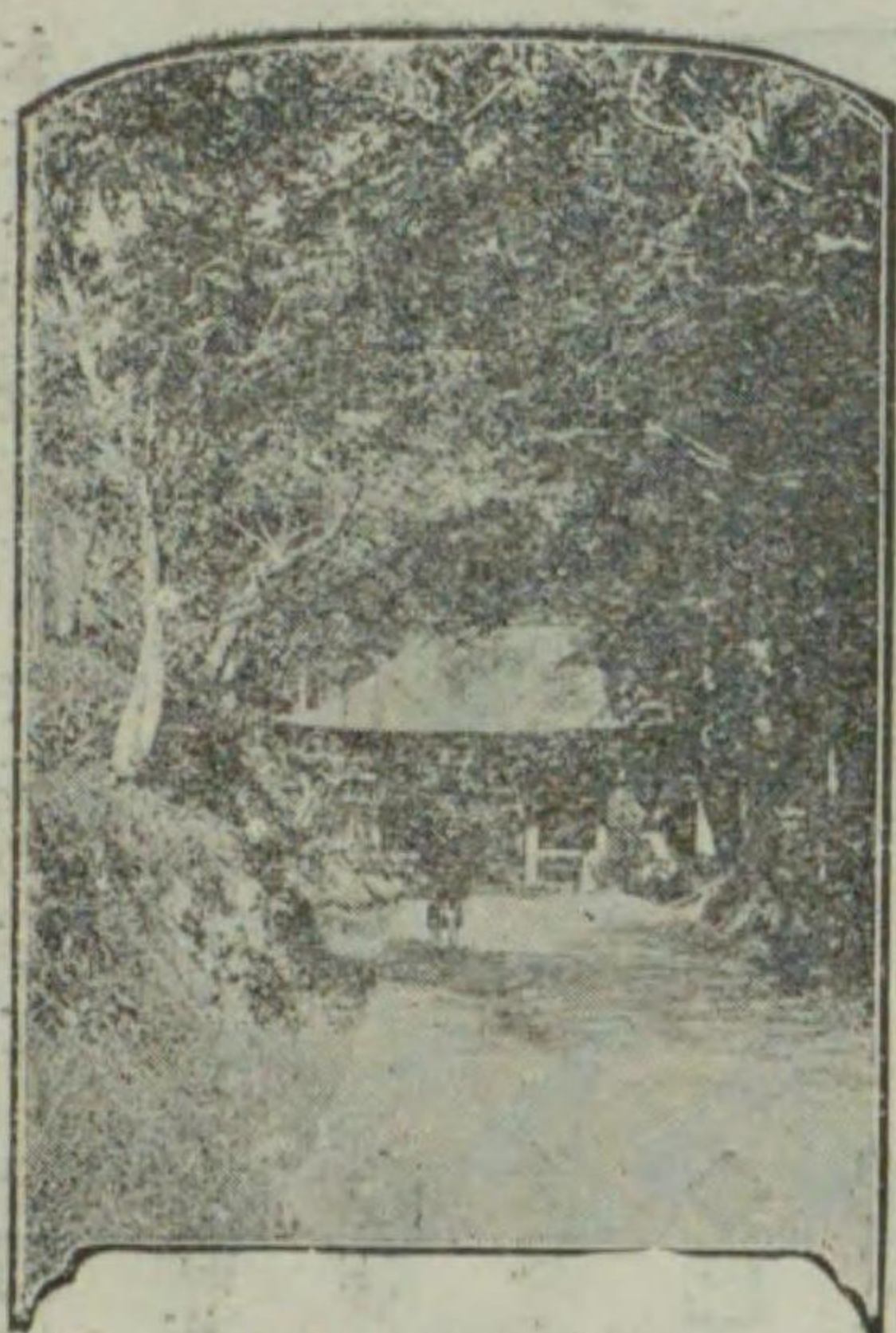
渥美郡二川町に屬せる突兀たる小山にして高師原の一角にあり山上直立八

十尺の岩上に高一丈二尺の觀音の銅像を安置す明和二年江戸谷中より寄進せる處なりといふ

山腹に觀音堂あり二川驛を距る六七丁。山上の展望極めて佳なり。

◇普門寺

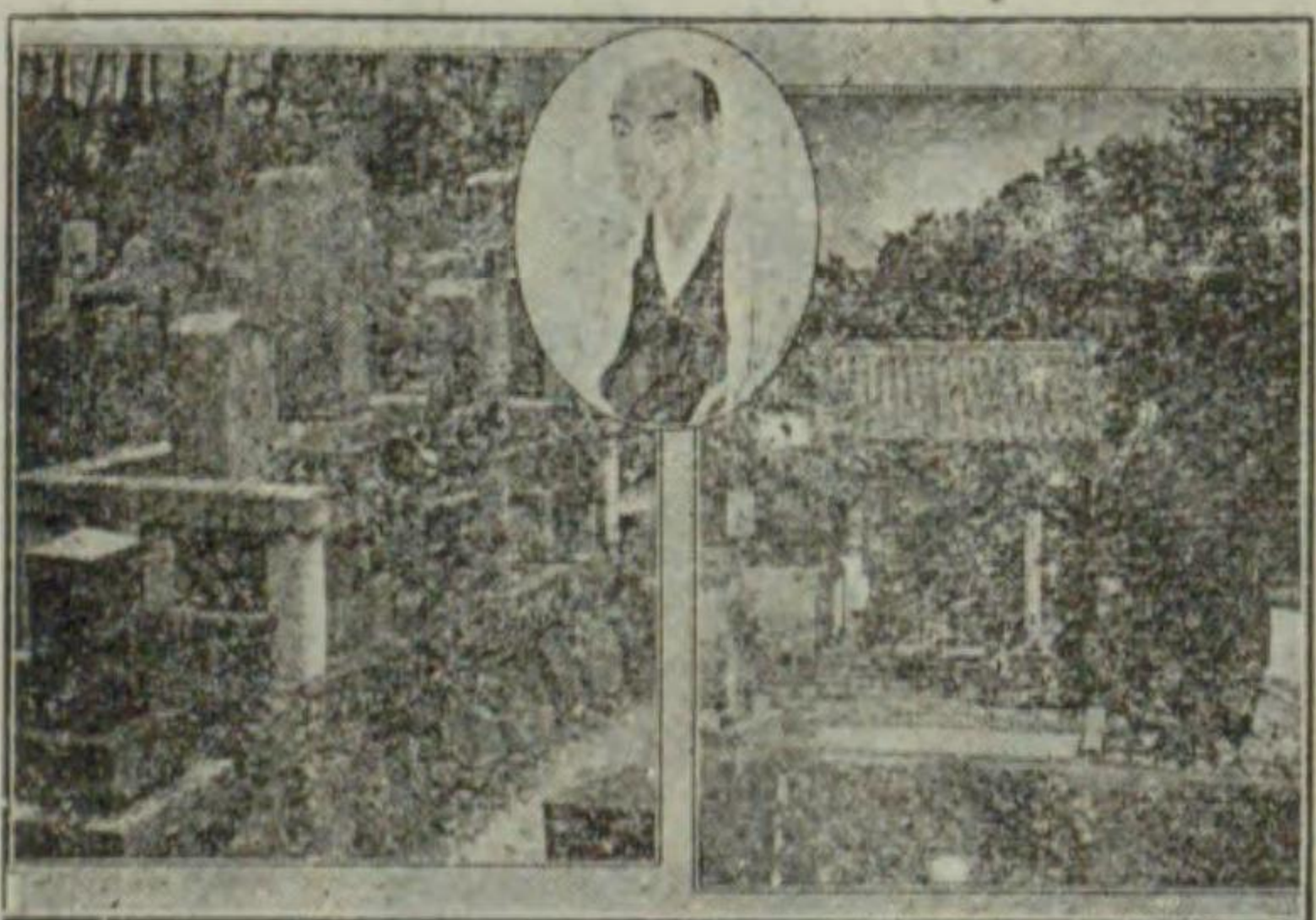
渥美郡二川町字雲の谷にあり東觀音寺と同じく行基の創開する處にして



普門寺



東觀音寺多寶塔

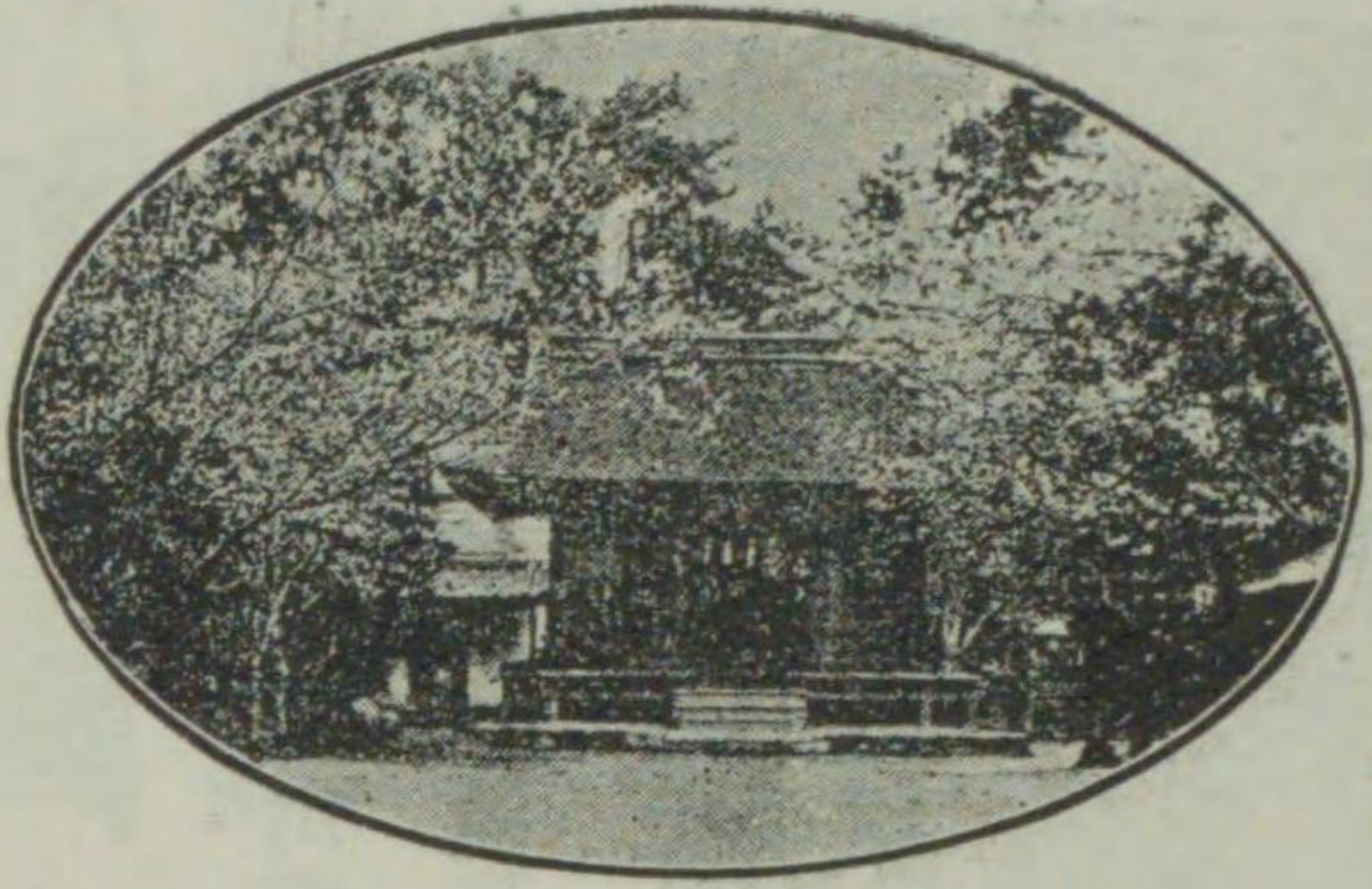


城寶寺、華山像、華山の墳墓



本尊の聖觀世音は行基の作なりと稱せらる。多くの國寶を藏す。頼朝上洛の途次此寺に淹留せしことありといふ、境内樹木鬱蒼春秋杖を曳くもの多し、二川驛を距る一里余。

- ◇華山の墳墓 渥美郡田原町城寶寺境内にあり、其の邸址を池の原公園と名づけ東郷大將の筆「華山先生玉碎の址」の碑を建つ、豊橋市より電車及自動車の便あり。
- ◇巴江神社 田原町大字田原古城址にあり、縣社に屬す舊城主三宅氏の祖兒島高德を祀る、境外を巴江公園と稱し、園内に華山先生の記念碑を建つ。



社 神 江 巴

昭和三年十月十二日印刷  
昭和三年十月十五日發行

編輯兼 發行所 豊橋市役所内  
内 山 新

印刷人 豊橋市西八町八十六番地  
藤 田 庄 太 郎

印刷所 豊橋市西八町八十六番地  
藤 田 印 刷 所

發行所 豊橋市役所

58  
13



58  
13

清江浦  
康熙二十九年  
正月二十三日  
...

...

...

...

...

...

...

...



580  
13



580

131



580  
131



